

神奈川県青少年指導員制度50周年記念
横浜市青少年指導員のあゆみ



写真提供:横浜港客船フォトコンテスト

目次

横浜市長あいさつ	2
第25期横浜市青少年指導員連絡協議会会長あいさつ	3
横浜市青少年指導員連絡協議会組織図	4
横浜市青少年指導員連絡協議会歴代会長座談会	6
各区の活動紹介	13
○鶴見区	14
○神奈川区	18
○西区	22
○中区	26
○南区	30
○港南区	34
○保土ヶ谷区	38
○旭区	42
○磯子区	46
○金沢区	50
○港北区	54
○緑区	58
○青葉区	62
○都筑区	66
○戸塚区	70
○栄区	74
○泉区	78
○瀬谷区	82
神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会	86
青少年指導員制度50周年記念 平成29年度横浜市青少年指導員大会	88
横浜市青少年指導員新シンボルマーク決定	89
横浜市青少年指導員活動年表	90
青少年指導員制度50周年記念誌発行編集委員会委員一覧	92

「青少年指導員制度創設50周年」に寄せて

横浜市長 林 文子



地域の青少年の健全育成における大きな支えである「青少年指導員制度」が、このたび50周年という大きな節目を迎えました。

青少年指導員の皆様が、制度創設から半世紀にわたり紡いでこられました活躍の歴史に、心から敬意を表します。また改めて深く感謝申し上げます。

昭和43年に制度が創設されてから50年、横浜の子ども・青少年を取り巻く環境は大きく変化してきました。市の人口が205万人から373万人に増加し活力が増す一方で、近年は少子化や核家族化が進んでいます。そしていつの時代にあっても、次の世代を担う子ども・青少年の健やかな成長は、社会全体の変わらぬ願いです。

大変ありがたいことに、横浜市には、情熱と使命感を持って子ども・青少年の健全育成に取り組まれる青少年指導員の方々が、数多くいらっしゃいます。制度創設以来、本当に多くの皆様が、地域の大人として、子ども・青少年のためにできることを考え、創意工夫を重ね、活動に取り組んでこられました。活動のうえでは様々なご苦勞があったことと思いますが、皆様の活動から、本当にたくさん子どもたちが元気と希望を得て、未来への一歩を踏み出しています。そして、皆様が育まれた子どもたちは、それぞれの地域を支え、横浜市を支える大人になってくれるはずです。青少年指導員の皆様には、横浜の未来を育む大切な役割を担っていただいております。

横浜市としましても、全ての子ども・青少年が、自身の置かれている状況に関わらず、自らの可能性を伸ばし未来を切り拓いていけるよう、青少年指導員の皆様とともに、より一層取り組んでまいります。

結びに、青少年指導員制度創立50周年を契機に、今後も青少年指導員の皆様がますますお元気で活躍されますことを祈念申し上げまして、御礼の言葉とさせていただきます。

「青少年指導員制度創設50周年」を迎えて

横浜市青少年指導員連絡協議会 会長 石井 一也



青少年指導員制度創設50周年の節目にあたり、記念誌紙面をお借り致しご挨拶申し上げます。

さて、私たちの青少年指導員制度は、戦後間もなく始まった「児童愛護班活動」等に端を発し、昭和43年に制度化されました。現在では神奈川県下で約5300名、横浜市では約2700名が神奈川県知事、横浜市長より委嘱を受け活動しております。

戦後の荒廃期・高度経済成長期・オイルショック・バブル期と、大きなうねりを経て現在に至っておりますが、驚くほどの速さで世情が変わり、少子化・核家族化・地域の繋がり希薄化等が問題視され、さらにインターネットや携帯電話、SNSの急激な普及、発展により青少年を取巻く環境は激変し潜在化しております。

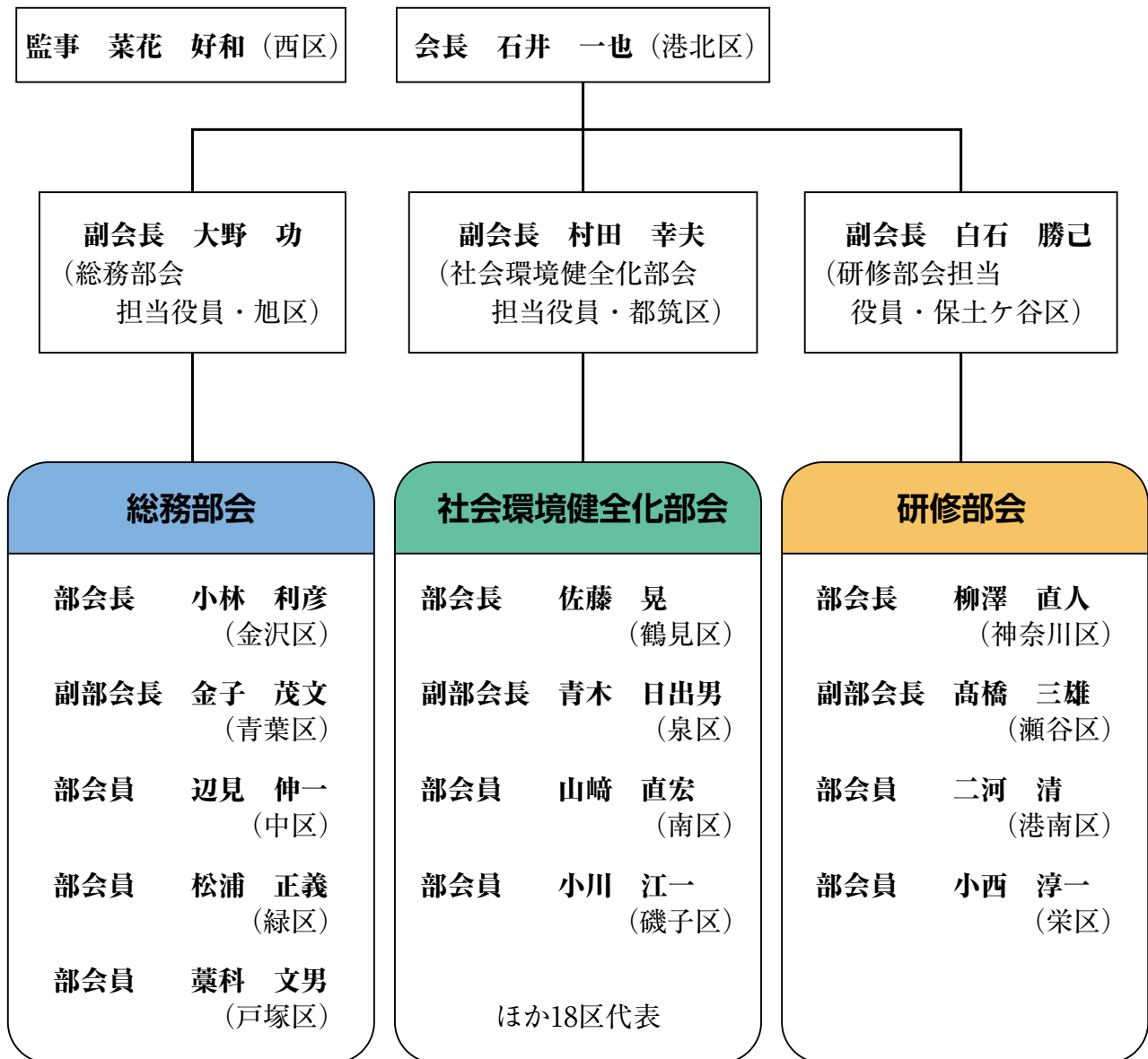
戦後のベビーブーム、いわゆる「団塊の世代」に象徴される競争社会において、合理化や利便性を推し進めるあまり、私たちの「こころ」までがデジタル化に向かってはいないでしょうか。

身の回りにある「いのち」は、あるのが当たり前ではなく、その命を感じるセンスをどのようにして身に着けるか・・・当たり前になっていたトンボ・メダカ・蝶やいろいろな鳥たちが最近いなくなってしまったことの重大さを、特に幼い子を持つ親、ひいては私たち大人が感じ取り、それを次世代を受け継ぐ子どもたちに、幼い頃より実体験を通して体得させることが大切だと思います。

今こそ、「デジタルからアナログへ」と舵を切り、将来を担う青少年が、夢や希望を抱いて成長していけるよう「地域で育てよう青少年」のスローガンのもと、次のステップに向け連携を深めていかななくてはなりません。

50年の節目に際し、改めまして先人達が積み重ねて来られたご功績に敬意を表しますと共に、将来に向かって青少年指導員各位の一層の活躍を祈念致し、ご挨拶とさせていただきます。

第25期横浜市青少年指導員連絡協議会組織図



第25期横浜市青少年指導員連絡協議会集合写真

青少年指導員制度50年

これまでの軌跡・これからの道程



横浜市青少年指導員連絡協議会

歴代会長座談会

出席者

松本 保夫（第6代会長：平成14年度～17年度）

飯田 正二（第7代会長：平成18年度～19年度）

石井 一也（第8代会長：平成20年度～現在）

宮谷 敦子（こども青少年局青少年部長）

村上 謙介（こども青少年局青少年育成課長）

宮谷部長 神奈川県は青少年指導員制度が50周年になるということで、現在、横浜市青少年指導員連絡協議会では記念誌を作成しております。その中で、第6代から現在までの横浜市青少年指導員連絡協議会会長の皆様に、これまでの活動の振り返りや今後の青少年指導員への期待について、お話しいただく機会を設けさせていただくこととなりました。

皆様は市会長としてだけでなく、青少年指導員として長い年月にわたり、経験を積み重ねてきた皆様ですので、色々なエピソードや貴重なご意見をたくさんお持ちであると思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

それでは、初めにお一人ずつ簡単に自己紹介をお願いいたします。

石井会長 私が青少年指導員になったのは昭和59年。今年度で34年目になります。市の協議会会長になったのは平成12年で、今年度で5期10年目です。最初は青少年指導員が何たるか分からない中で始めましたが、早いもので30数年経ちました。色々ありましたが、我々の仲間、諸先輩方に出会えたことが私にとっての一番の財産だと思っています。



〔第8代 石井会長〕

飯田会長 私は青少年指導員を25年やりました。始めた当時、私はサラリーマンでしたが、ちょうど40歳のときに、ある雑誌で「会社勤めだけでは、会社を辞めた後、人との繋がりがなくなってしまう」という記事を読み、地域で何かやりたいと思うようになりました。最初から青少年指導員になろうと思ったわけではなく、たまたま空きが出たということでお受けしました。

当初は何も分かりませんでしたが、やっているうちにどうにかなるだろうと考え、サラリーマンをしながら休みの日には青少年指導員として活動する日々でした。

途中からは保護司も務め、そちらは22年間やりました。青少年指導員としては元気な子どもを育てようという反面、保護司としては崖から落ちてしまった子どもを救おうとする、この二つの異なる仕事をやっていました。今この歳になっても、「おっちゃん、おっちゃん」と子どもたちから声をかけられます。会社勤めだけをしていたら、おそらくこのような子どもたちとの関係も今の私もないだろうと思っています。

松本会長 私は26年間やりました。やめてからもう5、6年が経ちます。泉区がまだ戸塚区だった時代に活動を始めましたが、戸塚区から分区(※昭和61年度に戸塚区から栄区と泉区が分区)した後もずっと続けて活動していました。

青少年指導員として初めて委嘱を受けたときは緊張しました。青少年指導員の活動といっても初めは何をすればいいのかわかりませんでした。

お話をいただいたときは私自身が体育好きだったこともあり、体育指導員かと思いましたが、任されたのは青少年指導員でした。最初は「自分には向いていないだろう」と思っていたのですが、26年間続けることで自分も色々と勉強になりました。どちらかという自分には人に迷惑をかけてしまう時代も多かったのですが、「その恩返しになれば」という思いと、子どもたちと関わることで、少しでも良い子どもたちが育つ役に立てればという思いで活動を続けていました。また、青少年指導員をやることで「自分も悪いことはできないな」という戒めにもなっていたので、長く続けていて良かったと思います。

1 青少年指導員を始めたきっかけ

宮谷部長 皆様が青少年指導員を始めたきっかけを改めてお教えてください。

飯田会長 地域活動をしたいと考え、特に民生委員をやりたいと思っていましたが、町会長から「まだ若いということもあるし、青少年指導員をやってほしい」と言われまして、すぐに引き受けました。ただ、どういうものかは知らなかったですし、制度があることも知らなかったくらいで、入ってから活動を覚えました。

当時は今と異なり、子どもたちと触れ合う機会が多くあったと思います。区単位でバス旅行や地引網、芋掘りとかをやっていました。子どもたちと付き合っていく中で、最初は近所の子しか知りませんでしたが、段々と多くの子どもたちと知り合うことができるようになっていきました。

また、松本会長も話していましたが、一番良かったのは、自分のためになったことです。当時、私の娘が「お父さんが青少年指導員をやっているから、私は悪いことできないよ」と言っていて、「そんなの当たり前だよ」と言い返しましたが、そういう意味でもやっていて良かったと思います。

松本会長 青少年指導員のお話をいただいたときは、何もわかりませんでした。ただ、色々な人たちと話をしていく過程で「青少年の健全育成のために活動していく人である」ということが分かりました。当時は若かったですし、自分が青少年指導員として活動することで悪さをしなくなるだろうというのも一つのきっかけでした。青少年指導員の活動が長年続けられることで、横浜市の子どもたちにとって、良い環境づくりにつながっていると思います。こうした青少年の健全育成活動を続けることは、素晴らしいことだと感じています。



【第6代 松本会長】

石井会長 青少年指導員になったきっかけということですが、私の場合は地区の自治会長さんからのお誘いです。自分で仕事を始めて10年経っていない頃、ちょうど36歳の頃に青少年指導員を引き受けたのですが、その2年くらい前から何度か家に来て話はいただいていた。そのたびに自分が先頭に立って仕事をやっていたから、とても時間的に引き受けするのは無理だということだ

お断りし続けていたのですが、最後にその方から「僕がこうして君の所に通っているのは、君のことを思って来ているのだよ。」と言われたのが決め手になり、青少年指導員になりました。



〔宮谷青少年部長〕

2 青少年指導員活動の変遷

宮谷部長 皆様は青少年指導員の活動を長年見てこられています。昔と今とで変わってきたことはありますか。

石井会長 私が市の会長をお受けしたこの10年で感じたことですが、まず、社会環境がインターネットを中心に激変したように思います。

昔から家族形態の変化は言われていましたが、今は「向こう三軒両隣の良い関係」といったことはほとんどなく、近隣関係がかえって煩わしいという状況になりつつあります。そうした中で、青少年指導員としての活動も変化する必要性がありました。インターネットの急激な発展にともない、まずは自分たちが分からなければ子どもたちに指導ができないということで、そうした時期には盛んにインターネット関係をテーマにした講習会を開催していました。

環境の変化により便利になる一方で、お互いの顔を合わせたコミュニケーションが少なくなり、子どもたちが夜中だろうと何だろうと簡単に繋がるといった良くない面を享受しているような気がしてなりません。これは子どもの心だけでなく、大人の心にも悪影響を及ぼしている気がします。前から言い続けているのは、「デジタルからアナログへこの辺でそろそろ舵を切らないといけない」ということです。私どもの地域では、「ペットボトルロケット大会」がありまして、環境問題などに関連付けて実施しているのですが、何よりも「命の大切さを感じるセンス」を持ってもらいたいと思って実施しています。

私どもの地域では、よりメンタルな面に踏み込んだ活動に今は変わってきている気がします。

松本会長 今、石井会長が話していたことは、まさにそのとおりで、私自身もそう感じています。今の時代、子どもたちがインターネット、パソコンで遊ぶのは当たり前です。

我々の時代は地域の子どもたちが集まり、そこでふざけっこしてけんかをして、結局仲直りして、仲の良い友達ができるような感じでした。でも、インターネットだけの繋がりですと、そういった関係づくりは難しいのではないかと感じています。インターネットで連絡を取り合うことと直接会って話をするのは大きく意味が異なると思います。私は、これからいくら日本が変わったとしても、子どもたちが直接触れ合える場所はなくなってはならないと考えます。直接の触れ合いの中でこそ、子どもたちは育ちます。

海や山にみんなと一緒に行って、お互いに協力し合う経験などを通じて、どういったことが悪いことなのかの線引きを覚えたりするということはインターネットだけでは難しいと思います。

また、親が子どもに理解を示すことも必要です。親が子どもを外に出すようにしていかなければ、これからの子どもたちが本当の意味での友達を作ることは難しくなると思います。

最近、自分さえ良ければ良いとか、他人の心を考えない人が増えてきたと感じています。

以前の活動を思い返すと、子どもたちが地引網をやってお互いに助け合うことで仲良くなっていたと思います。

こういった考えは古いのかもしれませんが、可能であれば、これからの青少年指導員の活動でも直接の触れ合いを大切にしたい活動を続けていきたいと願っています。

これには家庭の協力も必要ですが、「向こう三軒両隣」というのは今の人たちにとって本当に煩わしいだけのものになってしまっていると感じます。「うちのことは放っておいてくれ、うちがうちでやっていくから結構です、お宅には迷惑をかけませんから。」という人が多いです。最近では、時代が変化し、子どもに話しかけることも難しくなったような気がします。

でも、それはそれで現実として受け止めて、行政が中心となって地域の触れ合いの場を大事にする方向に進んでいってほしいです。例えば、同じ内容のチラシが回覧板に入っていたとして、「横浜市」の名前が入っている、入っていないという違いだけでも読み手の感情は変わると思います。そういった工夫もしながら、青少年の健全育成を進めていってほしいです。



飯田会長 遊びの形が変化するのは時代の流れの中ではやむを得ないことだと思います。むしろ子どもが時代の先端をいくのは当たり前で、その変化に対して、大人がどうついていくかだと思います。

子どもを地域の行事にどう集めるかではなく、大人がいかにして子どもたちの前に出ていくかが重要です。「何々をやるから学校に来てください」と言って土日に子どもたちを集めようとしても、せっかくの休日に学校に行こうとは思わないはずです。地区センターや地域ケアプラザを使うなど、開催場所を工夫し、かつ子どもたちに自ら関わりに行く姿勢が必要です。

私の地区では、年に3回くらい大きな行事をやっていますが、人が集まらないということはありません。それは普段から子どもたちの前に立ち、色々と話をしている結果だと思います。

現役の青少年指導員を見ますと、まだ仕事をしていて土日しか休みがないという人も多く、難しいと思いますが、ぜひ日曜日に地区センターに行ってみてほしいです。なぜなら、そこには地元の中学生在がいて、地域の子どもの様子も分かるようになるからです。まずは「地区センターに顔を出すこと」から始めてみてほしいと常々思っています。



【鶴見区民まつり竹とんぼ教室】

これからの青少年の健全育成は、子どもたちが寄ってくるのを待つのではなく、大人から地域の子どもの中に入っていく必要があると思います。

あとは、「地域性」をよく考えて活動をしていく必要があります。生麦地区ではうまくできたとしても、別の地区で同じことをやるとうまくいかないこともあります。昔の人が作った地域性は大切にすべきで、無視してしまうと「地域活動」ではなくなってしまいます。「地域性」を後世に伝えていくのも我々大人の役割の一つです。

それから、私は「将来の担い手をどうするか」を常々考えながら地域活動を続けています。私の活動を見て「自分も歳をとったら、あのおっちゃんと同じように地域で活動しよう」と思ってくれる子が千人に一人でもいてくれればいいという想いで活動しています。担い手の発掘を念頭に置いているからこそ、今なお地域活動を続けられていると思います。

村上課長 私が住む地域はかつての新興住宅地ですが、今は高齢化が進んでいます。子どもの頃は、地域の運動会も大きなものでしたが、年々、参加者も少なくなってきています。

また、かつては、夕方になれば近所に子どもの声が響いていましたが、今は聞かれなくなりました。

昨今、地域での青少年の健全育成活動がしにくくなる中、伺った皆様の思いと活動には感銘を受けました。私自身が少し地域活動に携わった中で感じたのは、子ども同士が繋がると大人同士も、そして地域も繋がっていくということです。

子どもたちをしっかりと育成支援していくことは、改めて、横浜の未来に繋がると感じましたし、皆様がまさにそのことを地域で大事にしてくださっていることを実感し、とても心強く思いました。



〔村上青少年育成課長〕

3 活動体験談

宮谷部長 続いて、これまでの活動の中で、これはよかった、苦労した、という思い出についてお聞かせいただけますか。



〔港北区ペットボトルロケット大会〕

石井会長 市や県の会長としての思い出は、平成23年度の神奈川県青少年保護育成条例の改正です。改正時に神奈川県から相談を受け、「青少年指導員」を条例の中に盛り込みたいということになりました。その後、調整を進めていき、実際にその名が刻まれた時には重みや責任を感じました。

当時の仲間には「条例に盛り込まれた意味を考え、今一度青少年指導員として自分を律してほしい」と話しました。

あと、印象に残っていることとして、港北区のペットボトルロケット大会は20年ほど続けているのですが、10数年前にある記者の方が取材に来て記事にしてくださいました。

そして、3年程前、その方が新聞に「『宇宙兄弟』という映画を観た時、エンドロールに港北区青少年指導員協議会を見つけました。私が若い頃に取材をした大会が今も続いていることを知って、非常に懐かしく思いました。昔見た鶴見川の河川敷の情景が本当に上手に表現されていました。いつの日か港北区からも、大会に参加した子どもが宇宙飛行士になることを祈っています」というコラムを書いてくださいました。そういった方の心にも大会の意義が伝わっているように感じて嬉しかったです。

また、70年前と今では環境は大きく変わりましたが、我々が本気で子どもたちに向き合えば、その気持ちが子どもにしっかりと通じるのは、今も昔も変わりません。それを感じられるときは本当に嬉しいです。

飯田会長 鶴見区では以前竹とんぼをやっていましたが、私が栃木とか相模原まで竹を取りに行っていたこともあって本当に大変でした。一方で、当時のことを思い出すと、青少年指導員をやっていてよかったと思います。今も町会長として子どもたちと色々関わっていますが、その根底にあるのは青少年指導員としての経験です。

また、海外で我々と近い活動をしている方の話を伺ったときに驚かされたのが「ボランティア」に対する考え方の違いです。海外ではボランティアの拠点として教会があり、日曜日とかの空いた時間にまったくの無償でやるのが基本だそうです。我々のように、地区でユニフォームを揃えて活動したりするのは、向こうではボランティアと言わないとのこと。

だから、私は地域で子どもたちに何か協力してもらったりする時は「ボランティア」と言わず、「地域活動」という言葉を使うようにしています。

松本会長 私の印象に残っているのは、私が市の会長をやっているときに「成人のつどい」に青少年指導員が協力するようになったことです。今もそれが続いていることは本当に嬉しいです。



【泉区ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会】

また、泉区には障がい者団体が50ほどあり、中学校長会で子どもたちと障がい者が触れ合う機会を設けたいという話をしたら、初めは区内の校長全員が反対しました。

そこで、何度も何度も説得を重ね、やっとの思いで実現することになりました。障がいにも色々あるので全員が一緒にできる競技はありませんが、中学生に協力してもらいながら運動会を開催しました。

この運動会は10年以上続いています。2年目以降は校長先生から「やろうやろう」と言ってくれるようになりました。今では、中学生、障がい者、青少年指導員と一緒に食事もしたりして、とても良い行事になっています。

私は毎年参加していますが、今では会場に入りきれないくらい多くの参加者が来ています。ここに参加した中学生がどのように成長し、どういう感覚を持った人になってくれるのか、本当に楽しみです。こうした経験をした子が横浜市にいるということは、非常に良いことだと思っています。

4 今の青少年指導員、今後を担っていく青少年指導員に贈るメッセージ

宮谷部長 今の青少年指導員、これから青少年指導員を担っていく方々に対しての期待やメッセージをいただけますか。

石井会長 常々思うのは、青少年指導員として委嘱を受けるのも何かのご縁ということ。そして、「誰もが受けられるものではない」ということを意識してもらいたいです。青少年指導員を引き受けた方にも、色々な事情があると思います。ただ、青少年指導員としての委嘱を受けた2年間は、青少年指導員としての立場を考えながら粹に感じてやってもらいたいです。

飯田会長 私は今、青少年指導員を推薦する立場にいますが、「名前だけ貸してくれ」というようなことは止めなくてはいけないと思います。ただ、委嘱されたからには、青少年指導員として誇りを持ってほしいと思います。

そして、1期目の方にはしっかりとした研修の機会を設けてあげてほしいし、1期目の方にはぜひ研修の場に赴き、色々学んでほしいと思っています。

また、実感として、青少年指導員経験のある町会長さんが非常に多く、その人たちはみんなきちっとしています。つまり、今青少年指導員がやっていることは間違っていないということです。

松本会長 青少年指導員を長くやっている人や初めてやる人など、色々な方がいると思いますが、初めての人にはきちんと学ぶ機会を設けてあげてほしいと思います。1人1人が「青少年指導員とは」ということを学ぶためにも、地区のベテランやOBの青少年指導員が研修の講師になるのも一つだと思いますし、そうした機会があれば、今後青少年指導員を引き受けてくれる人たちもやりやすくなると思います。

宮谷部長 青少年指導員の皆さんは仕事をされている方も多い中で、夜には会議があったり、土日には行事があったりと大変なことをしていただいていると日頃感じていました。今日の座談会は、地域づくりや次世代の担い手育成が皆さんの活動を通じてできていると感じられる時間でした。

村上課長 皆様が地域の子どもたちを心の底から想っていることが改めてわかる時間となりました。また、お三方とも人と人との出会い、繋がりを大切にされているということも感じました。

そして、青少年指導員としての活動が人生をより豊かにし、皆様の魅力につながっていると感じることができる時間でした。皆様の思いをこれからの50年に向けて伝えていかなければならないと感じました。

宮谷部長 今日は本当にありがとうございました。

一 同 ありがとうございました。

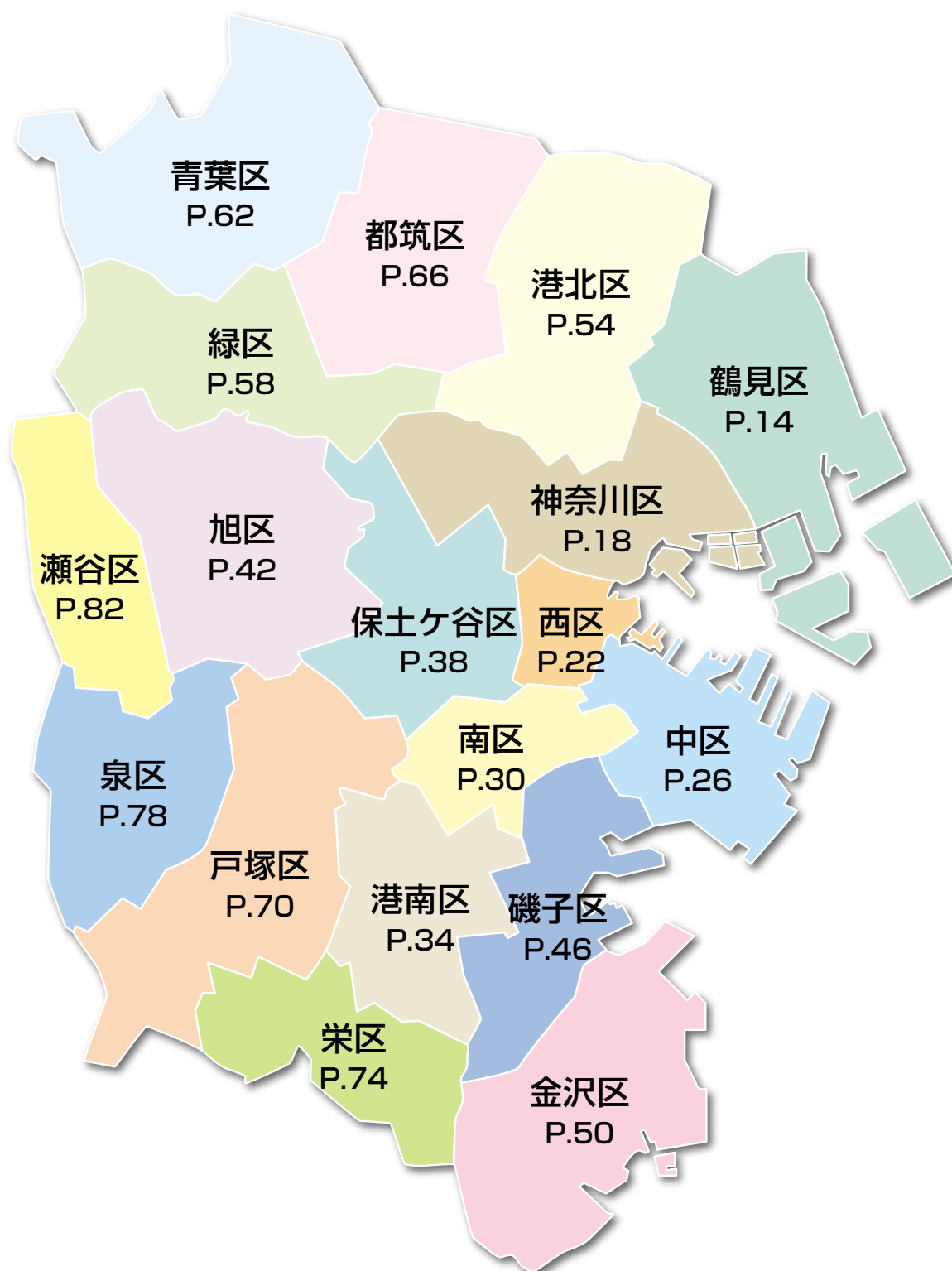


後方左から 大原担当係長、第8代石井会長、村上青少年育成課長
前方左から 宮谷青少年部長、第6代松本会長、第7代飯田会長

【参考】 歴代横浜市青少年指導員連絡協議会会長

	氏名	区名	期間
第1代会長	森井 卓次	鶴見	昭和48年度
第2代会長	原 進	金沢	昭和49年度～50年度
第3代会長	肥田 仙太郎	南	昭和51年度～52年度
第4代会長	柴田 梅吉	中	昭和53年度～62年度
第5代会長	渡部 近司	磯子	昭和63年度～平成13年度
第6代会長	松本 保夫	泉	平成14年度～17年度
第7代会長	飯田 正二	鶴見	平成18年度～19年度
第8代会長	石井 一也	港北	平成20年度～29年度

各区の活動紹介



「50周年を迎えて」

鶴見区青少年指導員協議会 会長 佐藤 晃



青少年指導員制度50周年、節目の年を迎えられた事、お慶び申し上げます。

半世紀に及ぶ長い歴史の中、世の移り変わりと共に青少年を取り巻く環境も多様化して、その時代時代での対応の難しさ、厳しさも有った事と思います。

私も40年近く微力ながら活動して参りました。なぜここ迄続けられたのかというと、良き先輩、良き仲間に出会うことができ、地域の皆さんの協力があり、そして何と言っても家族の理解があったからだと思います。

私が子どもの頃はまだ青少年指導員の様な組織も無く、その代わり近所のおじさん、おばさんが目を光らせ、悪さをすれば叱ってくれました。青少年指導員制度がある今こそ私達が口うるさいおじさん、おばさんになる番です。青少年の非行を抑止し、イジメ、虐待等が少しでもなくなるように、学校、地域、家庭と協力し合い、これからも今迄以上に頑張って活動していきたいと思います。

「青少年指導員制度50周年を祝して」

鶴見区長 征矢 雅和




この度は青少年指導員制度50周年、誠におめでとうございます。半世紀もの長きにわたり、青少年指導員の皆様には、地域の青少年健全育成活動の中心的な存在として、レクリエーションやスポーツ活動のほか、青少年に望ましい地域づくりのためのパトロールや社会環境実態調査など、地域の実情に応じた様々な活動に御尽力されてきたことに深く敬意を表するとともに、心より感謝を申し上げます。

青少年指導員の皆様には、日頃より地域での活動を通して、青少年を温かく見守っていただいておりますが、青少年を取り巻く環境が複雑化している今日、そのような地域ぐるみの活動はますます重要になっております。

私ども行政といたしましても、青少年指導員の皆様とともに青少年の健全育成等、言わば横浜の未来を育てる事業に引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、青少年指導員の皆様の活動がこれからも歴史を重ね、ますます発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

<鶴見区協議会の紹介>



鶴見区の青少年指導員活動単位は、18地区に分かれています。

青少年指導員の人数は全部で137人。その中で専門部会が3つに分かれています。

- ・ 事業部会
- ・ 研修部会
- ・ 広報・調査部会

<主な年間活動計画>

【平成29年度の活動計画】

- 毎月の地区長会
- 区民フェスティバルの参加
 - ・ 三ツ池公園フェスティバル（5月）
 - ・ つるみ臨海フェスティバル（10月）
- つるみ子育て・個育ちフォーラムの参加（11月）
- 鶴見区内公立中学校生徒交流の集い（1月） 【事業部会 主催】
- 年に2回の研修会（11月・2月） 【研修部会 主催】
- 活動報告会（3月）
- 青指だよりの発行（3月） 【広報・調査部会主催】

・平成23年度 生麦事件 研修会

潮田東部地区 山本 恵子



平成24年に事件から150年を迎える生麦事件について、「文久二年 生麦事件参考館」館長の浅海武夫氏より講演をしていただきました。近代国家設立の発端となったこの事件の概要や歴史的意義を巧みな話術で話され、あっという間の1時間半でした。

・平成28年度 LGBT 研修会

潮田西部地区 仲西 幸四郎



2月23日(木)に、横浜市立鶴見中学校 校長 間邊浩二氏による「性的マイノリティの人権を考える」をテーマに研修会を行いました。LGBTの理解を深める大変意義のある研修で多くの方々の出席をいただきました。

・活動報告会

生麦第二地区 望月 美代子



1年間の締めくくりの会として子供達が健やかに育ってほしいとの思いで各地区自治会や地域の方の支援のもと、運動会・デイキャンプ等を計画し、事例を発表し合うことで他地区も参考にしたり今後の青少年育成活動のスキルアップを目的としています。

・ 中学生との交流会

生麦第一地区 山沖 邦則



平成29年で16回の伝統のある行事です。区内公立中学校の生徒と先生、青少年指導員が集まって交流をしています。昨今ではカレー作りやグラウンドゴルフを一緒に行い、最後は青少年指導員と懇談会をしています。各学校の生徒から毎年好評で、また参加したいとの声がたくさん上がっています。

・ 三ツ池公園フェスティバル

寺尾地区 笈川 正男



毎年好天に恵まれ、青少年指導員ブースにたくさんの子供達が遊びに来てくれました。ブンブンごまや紙とんぼは自分達で作る世界に一つだけのおもちゃ！出来上がった時の子供達は達成感一杯でした！！

・ 臨海フェスティバル

下末吉地区 番場英雄



鶴見区の3大フェスティバルのひとつで臨海地区自治会や団体が主として開催されます。青少年指導員としては、【ブンブンごま】と【紙トンボ】を手作りして遊んで貰います。自分で廻せるようになって、ブンブンと音が出たときの子供達達の喜びの笑顔が、とても素晴らしく感じられます。

「私の青指活動の思い出」

神奈川区青少年指導員協議会 会長 柳澤 直人



私の青少年指導員活動の始まりは、町内会長から年に1、2回の会議に出席するだけですからお願いしますと言われたのが始まりでした。しかし、いざ引き受けてみると月1回の会議や地区の行事の運営委員などやることが多く面食らう事ばかりでしたが、気が付くと青指の歴史の半分以上にかかわってしまいました。私が活動で印象に残っているものは幾つもありますが、中でも紙飛行機大会が一番です。これは、各地区の予選から始めて区の選抜大会、横浜文化体育館での市の本大会までと全市を挙げての大きな事業でした。今は全市規模の事業がないのがさみしい気がしています。

神奈川区は臨海部のマンションに住む新しい住民と、歴史ある区としての古くからの地元の人達の多い地区とがあり、行事を行っても地区により対応が違ってきます。このため、区の行事を行うにあたり、出来るものは毎年会場を地区の持回りとして、参加者もいろいろな地区を知る機会を増やすように心がけています。これからも、地域の子供たちがより良い環境で成長する下地を作る事が青少年指導員の目標と考え、活動を行っていきたいと思います。

「50周年記念誌発行に寄せて」

神奈川区長 二宮 智美



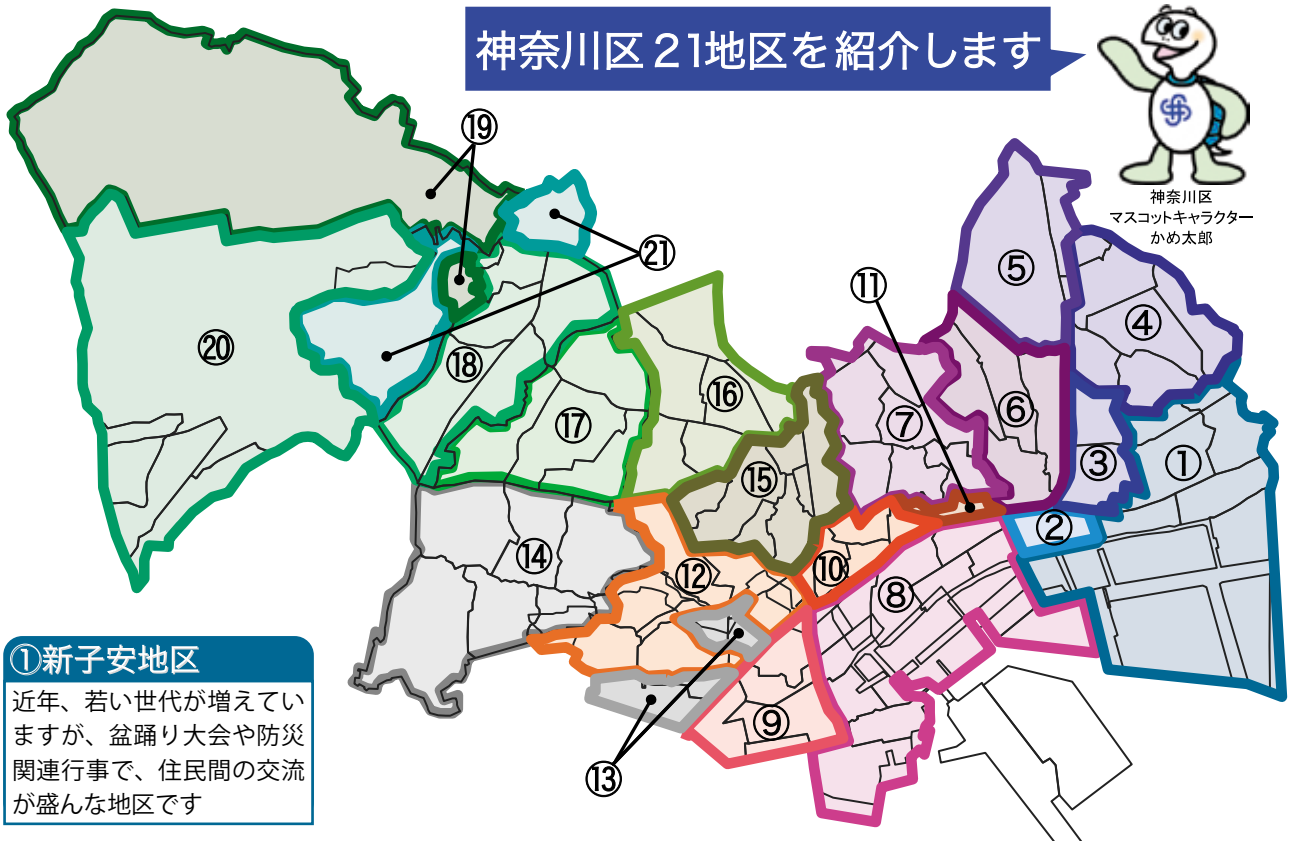
青少年指導員制度50周年記念誌の発行おめでとうございます。神奈川区青少年指導員協議会におかれましては、ホテル観察の夕べ、ペットボトルロケット大会、親子ふれあいスケートや小学校音楽フェスティバルなど、実に様々な行事・活動の積み重ねにより、多年にわたり神奈川区の青少年健全育成に大いに寄与されていることに改めて深く敬意を表します。神奈川区では、区を挙げて青少年の元気づくり支援に取り組んでおり、今後も青少年指導員の皆様とともに、次代を担う青少年の健全育成を推進できれば幸いです。

神奈川区は平成29年に区制90周年を迎えた歴史ある区で、活気ある商店街や実り豊かな農業地域、閑静な住宅街など様々な魅力がある「海と緑と丘のまち」です。青少年指導員の皆様は、各地区でその特色を生かした行事に積極的に取り組まれており、地域活動の担い手としてのご活躍にも感謝申し上げます。

結びに、この記念すべき50周年が更なる飛躍の契機となり、青少年指導員制度がますます発展することを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



神奈川区21地区を紹介します



①新子安地区

近年、若い世代が増えています。盆踊り大会や防災関連行事で、住民間の交流が盛んな地区です

②子安通1丁目地区

餅つき、アスレチック、昔からの漁師町の名残で運河岸に家、作業小屋、船が係留されている地区です

③入江地区

真夏の夕涼みウォーキングや健康ウォーキング、ふれあいスポーツ、異世代交流ラジオ体操を行っています

④神之木・西寺尾地区

静かな住宅地です。スポーツのイベントを通じてルールを守ることの大切さを子ども達に伝えていきます

⑤松見地区

港北区と鶴見区に隣接する地区です。年に一度港北区の青指と合同で小学校の行事に参加しています

⑥大口・七島地区

安心、安全な街作りを目指し、地域祭り、盆踊り、運動会等、多彩な地域交流事業を行っています

⑦白幡地区

白幡地区の「オーケストラコンサート」や「地域まつり」を子供会やスポ進と一緒に力を合わせ成功させています

⑧神奈川地区

我が地区は17町会から成り年2回スポ推と共にグランドゴルフ大会の運営に携わり地域友好を図っています

⑨幸ヶ谷地区

金沢文庫～称名寺～海の公園までハイキング後、野島公園で楽しいバーベキュー！が毎年恒例行事です

⑩神西地区

歴史ある地区の旧住民と新マンション住民の交流を図るため老人会と子供会の共同行事を進めています

⑪浦島丘地区

浦島太郎伝説の名を持つ地域で、港の景色も美しい丘にある静かな住宅地です

⑫青木第一地区

アイスアリーナや公園などの施設に恵まれており、親子スケート教室や鯉のぼり大会などを実施しています

⑬青木第二地区

横浜駅に近く、6町内会がグランドゴルフ、福祉の集い、防災運搬訓練で世代間交流に取り組んでいます

⑭三ツ沢地区

地下鉄2駅を有し交通至便な住宅地で若い人も増え2年毎開催の連合運動会等で交流を深めています

⑮神北地区

運動会とグランドゴルフを隔年で行っています。グランドゴルフは盛んで全国大会に出場した町会もあります

⑯六角橋地区

「地域の顔見知りをつくろう」を合言葉に、納涼会・運動会・文化祭・バスツアー等で絆を深めています

⑰神大寺地区

坂が非常に多い地域です。自治会の行事では若い世代が参加できるウォークを続けて取り組んでいます

⑱片倉地区

新横浜通りの両側に広がる地区です。中丸小学校やうさぎ山グラウンド等を活用した行事に取り組んでいます

⑲菅田地区

農道マラソン、キャンプなど神奈川区の奥座敷と呼ばれる緑豊かな環境を活かした行事に取り組んでいます

⑳羽沢地区

新幹線、第三京浜、新鮮野菜、道祖神、スポーツ、JR新羽沢駅・・・が羽沢地区に住む私たちの宝です

㉑三枚地区

どんど焼きや、地場産の花や野菜などが当たる初詣くじなど、イベントを通じて地域交流を行っています

神奈川県青少年指導員の体制

(H29.9.30現在)

名称	神奈川県青少年指導員協議会		委嘱 人数	177人 (原則、区内180町会 から各1人推薦)
役員	会長1人、副会長2人、会計2人、監事2人			
理事	21人(21地区の地区長より構成)			
会議	総会	年1回開催	理事会	原則、毎月第2土曜日に開催
委員会 ・部会	企画委員会	全体計画、予算立案など	事業部会	各種事業の計画と実施
	研修部会	各種研修の計画と実施	編集部会	青少年指導員だよりの編集発行
男女比	男7.4：女2.6		平均年齢	55.7歳

神奈川県青少年指導員の一年（主な行事）

ホタル観察の夕べ - 6月中旬 -



横浜市緑区の四季の森公園にホタルを観に行くイベントです。例年、神奈川区の小中学生と保護者が100人程度参加しています。

ペットボトルロケット大会 - 7月上旬 -

区内の小中学校を会場にペットボトルロケットを製作し、実際に飛ばしての距離を競う大会です。小中学生と保護者で60人以上参加、ペットボトルロケットの打ち上げでは大いに盛り上がります。



ものづくり体験教室 - 7月下旬 -

ペットボトルを使って花瓶を作ったり、PPバンドを使ってかごを作ったり、身近なものを材料に、さまざまなものを工作する楽しい教室です。夏休みの宿題にする小学生が多く参加します。

親子ふれあいスケート - 11月下旬 -

横浜銀行アイスアリーナ協力のもと、初心者講習を実施後、スケートの楽しさを体験してもらうイベント。150人以上の親子が参加しています。



小学校音楽フェスティバル - 12月中旬 -

区内小学校が参加する合唱を中心とした音楽会。日頃の練習の成果を披露するとともに、他の小学校と「ふるさと」を一緒に合唱することを通じての交流もしています。参加者、観客含め約2,000人、スタッフの青指も60人近く従事する青指最大規模のイベントです。



社会環境健全化活動

* 街頭キャンペーン等(7月): 内閣府が「青少年の非行・被害防止全国強調月間」と定める7月に、関係団体と連携して薬物乱用防止キャンペーンを実施。また、コンビニ、公園、商店街や住宅街等をパトロールし地域の青少年を見守ります。

* 社会環境実態調査(7~8月)

その他研修会など

* 交流会(5月): 年度の初めに区内の青少年指導員が集い、交流を図っています。

* 全体研修会(6月): 青少年育成に役立つ内容をテーマとした講義や施設見学、救命講習など、青少年指導員の資質の向上を目的に開催しています。

* 地区研修会(9月): 各地区の活動状況や問題点を知り、自分たちの活動に生かしていくため、21地区持ち回りで開催、担当地区の青少年指導員が協力して実施しています。

* 実践型研修会(11月): 青少年育成者として参考になる施設の見学などを行っています。

* 「神奈川区青少年指導員だより」の発行(9月、3月): 行事、研修会を取材した記事と行事に参加した子どもに書いてもらった作文を編集して年2回発行、各地区の青少年指導員経由や町内会回覧などで、活動状況を地域の皆様にお伝えしています。



区役所等関係団体への協力など

かながわ湊フェスタ(5月)、少年少女ソフトボール大会(7月)、神奈川区民まつり(10月)、「成人の日」を祝うつどい(1月)など

地域での活動

自治会町内会役員、スポーツ推進委員、子ども会、民生委員などの皆さんと協力して、地域での様々な行事の担い手として活躍しています。

「青少年活動を振り返って」

西区青少年指導員協議会 会長 菜花 好和



委嘱を受け40年が経過しました。記憶に残った活動をいくつか取り上げてみると、水谷修先生の『青少年の薬物問題を考える』講演研修会、習志野市から岸さん(秋津コミュニティ会長)をお迎えして学校と地域の結びつきを考えたシンポジウム、下見を重ねた異世代年齢交流会の海・山の探検隊、甲板磨きに汗した日本丸での海洋教室、又地域では薪や水の運搬に苦勞した飯盒炊飯(最近では三ツ沢野外活動センターでのランチハイキング)、小学校での『出前事業』万華鏡、そして区内の横串活動として始めた西区『紙ヒコーキ大会』など、さまざまな活動を展開してきました。

この活動のコンセプトは親子の対話、そして地域のつながりです。昨今はSNS、フェイスブック、ライン等電波によるものです。対話とつながりのもっとも大事なことは互いに顔を見合わせる事です。

青少年の健全育成には目で見てすぐに変化のわかるホームランの活動はありません。地道にヒットの活動を続け、新たな家庭の絆、地域のつながり作りが必要だと考えます。これからも是非皆さんのご協力をお願いいたします。

「青少年指導員の皆様へ」

西区長 吉泉 英紀



青少年指導員制度が50周年を迎えられることを心からお慶び申し上げます。また西区の青少年指導員協議会の皆様におかれましては、半世紀に亘り青少年の健全育成のため、地域活動に取り組まれていることに対して、深く感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、夜間パトロールなどの活動による見守り活動に取り組まれているとともに、子ども会や町内会と連携し、地域の運動会やお祭り、子ども作品展等を開催されています。このような地道な活動こそが、ネットを通してではなく、青少年が人との交わりが実感でき、健やかに成長できる地域づくりにつながるものと確信しております。

また、スポーツ推進委員とともに、西区の恒例イベントである「西区ハマのウォーキングフェスティバル」の運営にも協力され、家族で楽しめる区民のための健康づくりにも貢献いただいております。

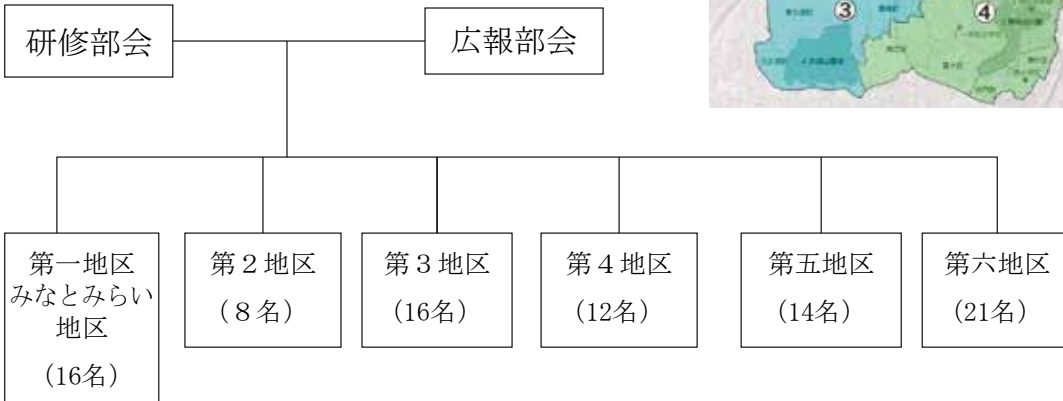
今後とも、青少年指導員の発展と皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

西区青少年指導員協議会

西区の青少年指導員は6地区に分かれています



西区青少年指導員協議会



地区活動

●第一地区・みなとみらい地区 天体観測

平成26年3月に第1回を戸部小学校にて開催し、第4回となる本年は約50名が参加。天候が悪く町の明かりの影響で本当の星は観測できませんでしたが、プラネタリウムは好評でした。



●第2地区 親子ふれあい花火大会

毎年8月の夏休みに花火、ビンゴゲーム、食事会をかねて実施。平成28年は200人以上が参加。ビンゴ大会で盛り上がり、青指手作りの焼きそば、おにぎりで腹ごしらえ、最後は全員で打ち上げ花火でお開き！次回もたくさんの参加を願っています。

●第3地区 子ども作品展

毎年9月中旬に藤棚地区センターにて開催。各町内会から提出された作品は夏休みの楽しかった思い出が感じられ、絵画や工作での子ども達の想像力や表現力の豊かさに驚いています。



●第4地区大運動会

今回で56回を数える大運動会は、毎年10月に開催しています。第4地区の16の自治会、町内会が参加し、17の種目に挑戦し、いい汗を掻いて地区のつながり、交流を楽しんでいます。

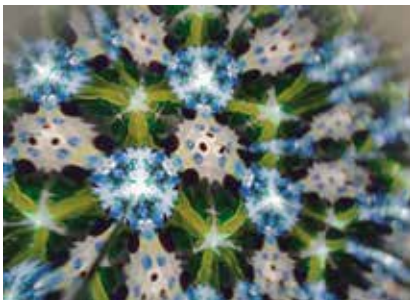
●第五地区 さわやかランドゴルフ

子ども達や初心者の方々にランドゴルフの楽しさを体験して貰う為、秋の岡野公園で実施。初めての体験でボールに当たらない、方向が違う等、戸惑っていたが楽しく体験でき、微笑ましかった。今後も活動を続けていきたい。



●第六地区 ペーパークラフト

ヒコーキ、風車、指人形、幅広い世代に対応。区民祭りやその他で実施、特に人気はヒコーキ、バルサ材から手作りし自分で作った満足感と笑顔はうれしいものです。もう一つは出前事業『万華鏡』宮谷、浅間台、平沼の各小学校で実施。筒の中の光の美しさを体験、今後も続けたい事業です。



西区青少年指導員協議会の行事紹介

●森と海の探検隊

平成13年～16年の4年間に渡り、子ども会と共催で異世代事業として実施。13年、14年は金沢自然の森へハイキングと木の名前、シダの葉などの観察をして、ドングリや草の葉を使った絵皿作りの「森の探検隊」。そして15、16年は、観音崎へ岬の台場跡や灯台見学を兼ねたハイキング。ここでのお土産は貝殻のペンダント、参加者は毎回100名を超え、自然に触れ勉強になり、また楽しかったと好評でした。この行事は平成16年の県青少年大会で事例報告として発表しました。



●紙ヒコーキ大会

平成24年から区内の交流を図ろうと始めました。1～6の各地区で小学低学年、高学年、中学一般の3部門に分けて予選会を実施。西スポーツセンターで3月に区決勝大会を行い、西区チャンピオンを決定。親子での参加が多く交流が図られました。



「スクラム」

中区青少年指導員協議会 会長 辺見 伸一



青少年指導員制度50周年を迎えるにあたり、これまで携わってこられました諸先輩方に於かれましては本当にお疲れ様でした。

私も20数年間色々な場面で青少年と接してきましたが、近年は社会環境の移り変わりとともに生活や行動等が著しく変化してきていると実感しています。

今後の青少年指導員としての活動に関しては諸機関との連携も含め様々な対応が求められてくるかと思われまます。

さて、中区の青少年指導員の特徴はスポーツ推進委員の協力の下、区及び地区の行事・活動を盛り上げるため企画・運営等を実施し、より良い地域環境を作り出す為スクラムを組み努力をしております。

しかし、各地区で青少年指導員として活動して下さる方が減少し、負担が大きくなっているのが現状です。

その為地域の方々のご協力を得ながら、次世代を担う青少年が健やかに成長するよう活動を行っていきたいと思います。

「50周年を祝して」

中区長 竹前 大



この度、青少年指導員制度が50周年を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。

青少年をとりまく社会環境はこの半世紀の間、大きく変化しています。中区の地域特性としては、開港から市の中心となる都市形成が図られ、歴史的な建造物が多い中、繁華街として発展した地域も多くあります。また、外国籍・外国につながる区民が市内で一番多いのが特徴です。

中区の子供たちはこのような環境の変化を見ながらその時代の中で成長してきました。この間、子供たちを愛する熱意と情熱から、一貫して青少年の健全育成にご尽力をされ、合わせて地域社会の良好な環境づくりに多大な貢献をされている青少年指導員の皆さまにあらためて敬意を表します。

中区は、青少年指導員とスポーツ推進委員とが一体となって様々な地域の活動に取り組まれている、これが昔から続いている大きな特徴であります。

50周年を機に、今後とも地域の絆を柱として青少年指導員の皆さまのご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

配置図

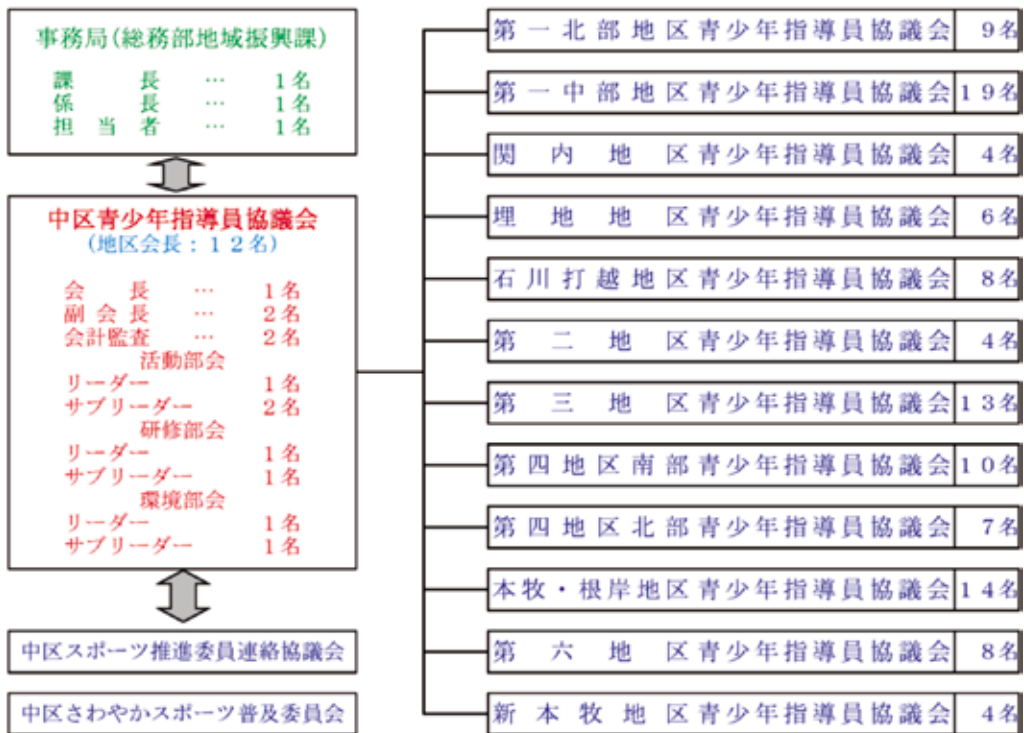


中区は左図のとおり12の地区で構成されています。

主なイベントとして中区文明開化ウォークラリー、山下会子どもフェスタ、ハローよこはま、なかっ子フェスティバルなどがあり、スポーツ推進委員と交流を深めるために合同で行っている行事もあります。

各地区の行事は小中学校やケアプラザの交流、運動会、バス旅行、餅つき大会、あるけ大会、筒かり、バーベキュー、各種スポーツ体験など千差万別で、その地域の環境や特色が現れています。

組織図(平成29年4月1日現在)



◆区活動紹介◆

ハローよこはま(中区民まつり)

毎年10月に開催され、約14万人が来場するイベントです。青少年指導員協議会のブースでは間伐材のキーホルダーづくりを企画、提供しています。参加した子どもたちが作ったキーホルダーは、世界に1つしかない記念品として喜ばれています。

また、全市統一行動キャンペーン活動では中区オリジナルの手作り飴を配布しています。



文明開化ウォークラリー

毎年5月下旬に開催され、約200名が参加するイベントです。スポーツ推進委員・さわやかスポーツ普及委員と共同で企画からコース選定、コマ図や課題の作成、試走まで、試行錯誤しながら作り上げています。参加者は3つのスタート地点から、コマ図をヒントに課題を解きながら、競い合ってゴールを目指します。なんと参加者には豪華な景品も・・・？



山下会「子どもフェスタ」

今年で第10回目になる山下会子どもフェスタに参加して7年目になります。幼児から小学生までを対象とし、山下公園でさまざまな体験や遊びを楽しみます。

私たちは環境創造局のみどりアップ推進事業の一環である間伐材を使って、昆虫のキーホルダーを子どもたちと一緒に作っています。



なかくっ子フェスティバル

子ども同士や地域の人々との交流を図ることを目的とした小中学生向けのイベントで、毎年2月頃に開催をしています。家の中で遊ぶことが日常となっている子供たちにベーゴマ、竹馬などの昔遊びやミニパラシュート、ペットボトルロケットなどの工作体験を楽しんでもらいます。会場は毎年区内の小学校を持ち回りで開催しています。

◆地区活動紹介◆

第1 北部地区

親子ハイキング&みかん狩りでは、京急長沢駅から三浦富士、武山山頂を經由し宮の里みかん畑へと歩き、100名以上がみかん狩りや餅つきを楽しみます。(江野)

第1 地区中部

38年前より地区社協と共催で視覚障害者団体とのふれあいボーリングを行っています。10年程前から地域中学生も参加し、視覚障害者と交流をしています。(大野)

関内地区

今年41回目を迎える関内もちつき大会や親子バーンゴルフ大会、街のまつりへの参加、ラジオ体操など顔の見える挨拶のできる関係づくりを目指して活動しています。(井上)

埋地地区

老若男女国籍問わず交流を深める「恒例あるけあるけ大会」は今年28回目を迎えました。活気ある行動と地域の輪をモットーに、地域住民の健全育成を目指します。(金原)

石川打越地区

石川小学校で子供達を対象にラダーゲッター・ナインゴール等さわやかスポーツの実施、授業の一環でコマまわし、羽子板など、昔遊びの指導をしています。(辺見)

第2 地区

青少年の枠を越え、老若男女が自共助の下、ハイキングやお祭り等の行事を通じ交流しています。先輩に学び後輩に教え、時には悩みを相談し、明るい環境・育成を目指しています。(植草)

第3 地区

一年を通して各種行事を行っています。筍狩りバス旅行、小中学校の金管バンドや吹奏楽部のコンサートを楽しんだり、ペタンク大会等も開催しています。(柴田)

第4 地区南部

毎年春に開催する「ふれあいウォーク」は、コマ図を見ながらゴールを目指し、ゴール会場ではお手製カレーを振る舞う、地域の方々や中学生との行事です。(近藤)

第4 地区北部

青少年指導員とスポーツ推進委員が中心となり、小港南公園で老若男女が多数参加する、軽スポーツを中心とした「ふれあい健康づくり」を開催しています。(渡辺)

本牧・根岸地区&新本牧地区

本牧・根岸と新本牧は2地区の青指・スポ推が合同で活動しています。学校支援活動として小学校スポーツフェスティバル会場の駐輪場整理や放課後キッズクラブの屋内ペタンク体験やペットボトルロケット飛ばし体験、地域支援活動として自治会町内会夏祭りや子ども七夕まつりに参加しています。子どもと大人、地域の交流を、呼びかけるだけでなく行動に移したいと思います。(野澤、中西)

第6 地区

毎年11月、山元小学校の校庭に動物園ができます。ポニーに乗ったりこぶた・ヤギなどにえさをあげたりモルモット・ひよこと一緒に遊んだり、大人子ども問わず楽しめる行事です。(粉川)

「50年の重み」

南区青少年指導員協議会 会長 山崎 直宏



いろいろなことを長い間続けるというのは、言うほど簡単ではなく、活動を50年間続けるには、相当なエネルギーを要してきただろうと思われます。今までの諸先輩方のご苦勞に感謝し、敬意を表したいと思ひます。

私が南区の会長になってまだ2年目ですが、今までの会長さん達がやってこられたことを何とか続けていくことに日々必死です。春の桜まつりに始まり、夏の南まつり、ふれあいキャンプ、秋のボイス・オブ・ユースなどの事業を、おたおたしながらもこなしてきました。

とても新しい企画や、将来を見据えた活動などはまだまだできない状況ですが、イベントに参加した子どもたちの明るい笑顔に触れることが、大きな喜びとなっています。

南区の青指は、児童・生徒との触れ合いの場、青少年の居場所を提供するという基本方針のもと、185名の指導員が力を合わせ、特色ある事業を継続しながら、次の50年に向けて活動して行けたらと思ひます。

「50周年に寄せて」

南区長 大木 節裕



青少年指導員制度50周年おめでとうございます。この記念すべき年を皆様と一緒に祝えることを、大変うれしく思っています。

青少年指導員の皆様には、それぞれの地域で、また区域全体を対象に、イベント、各種行事など1年を通して青少年の健全育成にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

青少年の健全育成のみならず、ふれあいキャンプやボイス・オブ・ユースでの運営ボランティアとして、青少年自身がかかわる南区ならではの取組は、長年の積み重ねの賜物であると思ひます。

これからも将来の南区を担う人材である青少年を育てるための活動を一緒に進めていきましょう。

結びに、長年活動にご尽力された皆様に改めて敬意を表しますとともに、地域における青少年の健全育成への認識と取組が、今後ますます充実・発展していくことを祈念しまして、発刊に寄せての私のあいさつとさせていただきます。

南区の概要

地区分布

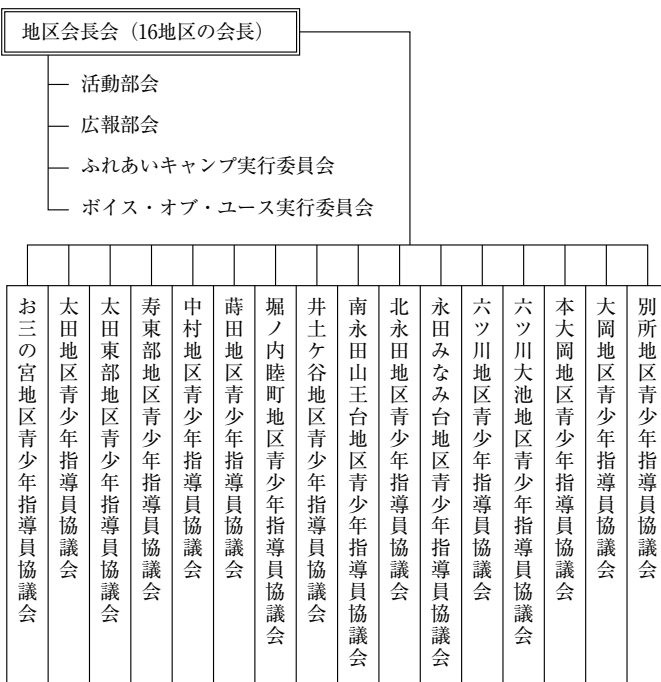


会長会

南区青指最高機関である会長会では、毎月1回の定例会に於いて、活動全般の方向性、役割等の確認、決定を行っています。



組織図



南区は、横浜市の中でも中心に位置し、16の地区連合によって構成されています。現在南区青少年指導員協議会は、185名で活動を行っています。南区の分布図に各地区別人数と男女比を掲載しています。

南区の青指活動は南まつり、ふれあいキャンプ、ボイスオブユース、桜まつりと、大きく4つの事業を行っています。後段では、この4つの事業について紹介します。

活動部会



年間行事の企画運営を行う活動部会。研修会では、司会、書記などを担います。4大行事では、準備や運営の活動全ての中心となっています。

広報部会



広報部会では年2回の広報誌の発行を行います。紙面カラー化、区内全戸回覧配布など、日々向上に努めています。

南まつり



また、大型テント4張を使い、模擬店として、やきとり、焼きそば、かき氷、揚げパン、カレーなどを出店し、区内小中高生が、2日間で延べ120名の参画により、盛大に運営しています。

毎年7月の最終土・日曜日の2日間、蒔田公園にて開催されます。南まつりにおける絵どうろうは、青指がまつりを盛り上げるため、全国的に有名な秋田県横手市より、絵どうろうを運び、展示したのがきっかけで、今では南区だけで200基も集まり、出来映えを競うコンテストもあります。



ふれあいキャンプ



楽しく取り組めるよう事前の打合せを入念に行い準備万端で臨んでいます。カレー作りを始めとした野外炊事、キャンプファイヤー、ナイトウォーク等を通じて自然体験、生活体験、親睦を深めています。

毎年夏に、子どもたちとキャンプを行っています。富士山の麓、御殿場のキャンプ場で行われ、小学3年から中学3年までの子ども達が3日間、親元を離れて過ごします。青少年指導員を含めると100人を超える規模で我々のメイン活動のひとつです。安全に且つ



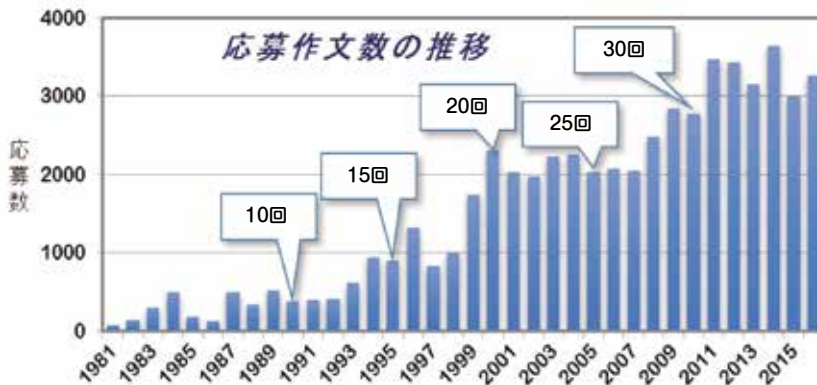
ボイス・オブ・ユース 青少年の主張

区内在住・在学の小学校3年生～20歳の人たちに応募してもらった作文を青少年指導員が手分けして審査します。募集のテーマは、多少の変遷はありますが、昨年度は①地域活動に参加して②私の夢③私のまち・学校・友達・家族④私の防災⑤自由課題でした。



11月下旬にみなみん(南公会堂)を会場に、入選者の表彰、優秀作品の朗読を行うとともに、それらの作品を掲載した冊子を発行します。

昨年度で36回を重ね、当初は73編の応募でしたが、年を追うごとに増え続けここ数年は3,000編を超えています。



子どもたちの自己表現、発表の励みであるとともに、私たち青少年指導員にとっては、作文の中に現れる新鮮な視点、真摯な思いに心を洗われる貴重な機会です。

桜まつり

南区を南北に流れ、桜の名所としても知られるのが大岡川ですが、そのほとりにある蒔田公園において、毎年桜の開花の時期に合わせて開催されるのが桜まつりです。多くの団体による出店や、たくさんの催し物などでにぎわい、今や南区の春の風物詩ともなったと言えるかも知れません。



青少年指導員も、焼きそば、焼き鳥、青指茶屋の出店を行っており、小・中

高生を中心とした多くの若いボランティアの皆さんにも参加してもらっています。彼ら彼女らの笑顔によって毎年大変盛況となっており、同時に彼ら彼女らにも大いにやりがいを感じてもらっています。

「青少年指導員」を通じて人が作られる・・・。

港南区青少年指導員協議会 会長 二河 清



四半世紀前、息子と娘(現在は30代半ばです)が地域のスポーツのクラブにお世話になっていました。私も「運動会」や「餅つき」に参加していました。それをきっかけに町内会で「青指」に推薦されました。当初、何十年も続いている活動という自覚のないまま、夏の「ユース・ナイト・ハイク」で三崎口～港南台の30キロを歩きました。ゴールで迎えてくれた人たちとトン汁の温かさは、懐かしい思い出です。今では親子の触れ合いをテーマにした春の「ひまわりウォーク」として引き継がれています。

また、足柄や伊豆での宿泊研修・心肺蘇生術やさわやかスポーツの体験・少年鑑別所や市内の施設見学・他区の青指との交流会・小中学生の実態アンケート・「こどもゆめワールド」等の「青少年指導員」のキャリアも今の私を作っていると言えます。

これからも、青指になったばかりの方々と先輩青指との「和」を大切にして、長く関わりたくなる協議会にしたいと思っています。あわせて、事務局を通じて、小中学生とのつながりも濃くしていきます。

「50年後の未来に向けて」

港南区長 齋藤 貴子



横浜市青少年指導員制度が発足し、50年となりました。

長きにわたり、青少年指導員の皆さまには、地域に根差した活動を続けていただき、誠にありがとうございます。

港南区では、区の花「ひまわり」にちなみ、「ひまわりウォーク」や「ひまわり生活体験交流」、また、「こどもフォーラム」や「こどもゆめワールド」、さらには各地域での取組も含め、子ども達を主役として、大切にしたい行事がたくさんあります。青少年指導員の皆さまが、子ども達の成長を願い、地域ぐるみで見守り、支援していこうと強い思いでかかわってくださっています。本当にありがとうございます。

子ども達にとって「ふるさと」と思えるような温かく、思い出深い地域となれるよう、これからも、未来に向け、青少年指導員の皆さまと一緒に創っていきましょう。どうぞ、よろしく願いいたします。

港南区活動紹介 ① こどもフォーラム

港南区では、平成10年度から、中学校区単位で、小学生と中学生が青少年指導員をはじめとする協力者(P T A、子ども会、少年補導員、主任児童委員)の支援を受けながら、様々な活動を通して地域のことを考える「こどもフォーラム」を開催しています。



具体的には、区内31校の小・中学校の子どもたち(運営委員)が、中学校区ごとのグループに分かれて活動します。誰もが「住んでよかった」と思える地域づくりを目指し、子どもたちの目線で、自分たちが住む「港南区をどんなまちにしたいか」をテーマに、自分たちができることを話し合います。公園や川の清掃、あいさつ運動、お年寄りとの交流等様々な活動を行います。活動には、地域のことに詳しい大人が、協力者としてサポートします。

地域と小・中学生がしっかり接点を持って地域に根ざした活動をすることで、子どもたちの理解と関心を深め、社会性を育むとともに、青少年の健全な育成活動へとつなげています。



回を重ねて2017年は20回目を迎えましたが、年毎に子どもたちの考える事も活動も変わり、協力者として学びを感じることもしばしば。そんなこどもフォーラムを港南区青指はこれからも力強くバックアップして活動を推進していきたいと思っています。

港南区活動紹介 ② ひまわり生活体験交流

港南区では、子どもたちをはじめとした地域の皆さんの「ふるさと意識」の醸成を目的に、昭和63年度から宮城県大崎市(旧三本木町)と相互交流しています。



宮城県 三本木ひまわりの丘

中でも、両都市の子どもたちが、毎年相互に訪問する「ひまわり生活体験交流事業」は、夏休みの3日間、港南区と大崎市の小学生(4～6



宮城県 花山の沢登り

年生)と一緒に2泊3日を過ごします。それぞれの地域の特色ある体験を通じて、仲間と力を合わせる大切さ、感謝する気持ち、初めてのことに挑戦する喜びなどを学びます。最初は緊張している子どももすぐに気持ちがほぐれ、みんな仲良しになります。

毎回参加した子どもたちからは、「いい思い出をつくることができた」「友達をたくさんつくることができた」「連絡先を交換した人たちと文通して将来再会したい」等様々な感想が寄せられています。

港南区青指もスタッフとして参加しており、子どもたちが楽しくそして安全に活動できるようサポートしています。その中で、子どもたちとの絆も深まります。子どもたちの笑顔や「参加してよかった」という声に元気をもらいながら、今後もサポートを続けていきたいと思っています。



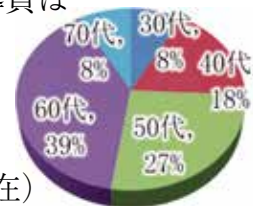
野島青少年研修センター

港南区青少年指導員より…

今を感じる 青指川柳

<p>青指員 なっているのは 高齢者</p>	<p>旧友も 青指とやって 20年</p>
<p>ユニフォーム 赤帽目立つが 認知度上がりず</p>	<p>大人より 頼りになるよ 中学生</p>
<p>どこにいる 我らがヒーロー 中学生</p>	<p>イベントに 参加する子は いつも同じ顔</p>
<p>ボランティア 気持を育む イベントで</p>	<p>ボランティア 話して一緒に 創る街</p>
<p>青少年指導員 誰に何を 指導する？</p>	<p>改革案 議論されども 現状維持</p>

★港南区の青少年指導員は
平均年齢56.9歳
平均委嘱期間6.1年
年齢分布は⇒
(平成29年9月1日現在)



★現在の港南区の青指は
赤い帽子に
黄色いポロシャツ



★港南区調査部会の
中学生アンケート結果より
青少年指導員を知っているか？
知っている ～ 22.5%

★青指関係のイベントに2016年港南区通算で324人の中学生が参加してくれました。共に活動する上で、ボランティアとしての中学生を育成していきたい、もっと大勢と一緒に

やっていきたいのですが、なかなか中学生に集まってもらえないのも現実の悩みです。

★次の50年に向けての港南区の青指の活動をどうしていくのか、各部会・各地区毎にこれから議論を深めて将来を見据えた活動をしていきたいと思ひます。

次世代とともに活動し、港南区の若い力を応援しよう

未来に向けてのスローガン

- このカミナリオヤジと言われる地域のご意見番、
目指すそんな青少年指導員
地域のにらみ役的な存在にさらになっていければと考えます。
- 10年後 担っているのは 子育て世代
- フォーラムの小・中学生 ここから育てて 未来の青指
- あの時一緒の中学生 今度は青指で仲間となって…
私たち青指と共に活動し育っていった人たちが未来の青指として賛同して活動してくれることも一つの目標として掲げていきたいと考えています。
- 怒鳴っても 目の奥の笑み 忘れずに
暖かい目で地域と子どもたちを見守る存在でありたいものです。

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

保土ヶ谷区青少年指導員協議会 会長 白石 勝己



保土ヶ谷区制90周年を迎える年に、青少年指導員制度は50周年を迎えました。昭和44年に横浜市青少年指導員制度が施行されたことにより、保土ヶ谷区青少年指導員協議会が生まれ、青少年健全育成を理念に活動を始めました。発足時は社会事情もあって、主に交通問題や環境浄化に取り組んでいました。

昭和53年に開始した新春かるた大会(百人一首)を始めたことを契機に区全体に一体感が生まれ、以降まとまりをもって活動を継続してきました。中学生の声を反映し、独自に型紙を作って始めた手作り紙ヒコーキ大会や中高校生がスタッフとして活躍する子ども科学教室、バンドバトルなど青少年とともに多くのイベントを行ってきました。「継続は力なり」で、今年度でかるた大会は41回を迎えることができました。また、毎年実施する研修会では自らを研鑽し、多様化する青少年問題に対応できるよう努めています。

これからも全員参加を基本に、青少年指導員同士の和をもって、17地区が一体となり、活動を続けていきます。

「50周年記念誌発刊に寄せて」

保土ヶ谷区長 菅井 忠彦



青少年指導員制度50周年記念誌の発刊を心からお祝い申し上げますとともに50年にわたる皆様の活動に敬意を表します。

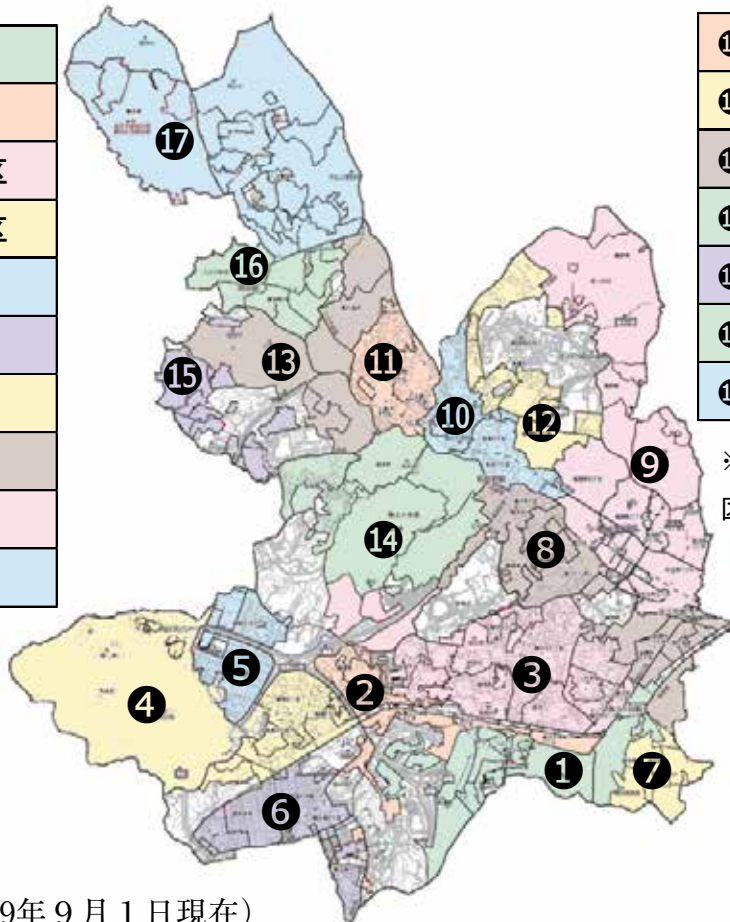
この50年の間に、少子・高齢化や情報化の急速な進展、女性の社会進出、地域における人間関係の希薄化など青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中、地域に根ざした皆様の活動はますます重要性を増していくものと考えております。

今年度、保土ヶ谷区は区制90周年を迎え、同じく節目の年を迎えました。保土ヶ谷区青少年指導員協議会の皆様には発足以来、時代の変化に応じて試行錯誤を重ねながら、新春かるた大会、手作り紙ヒコーキ大会、子ども科学教室、バンドバトル等、多彩な事業を展開していただいております。今後も引き続き、青少年が健やかに成長できる環境づくりに、青少年指導員の皆様とともに手を携えて取り組んでまいりたいと思います。

青少年指導員の皆様のみならずのご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

<保土ヶ谷区青少年指導員協議会 構成地区図>

①保土ヶ谷地区
②保土ヶ谷中地区
③保土ヶ谷東部地区
④保土ヶ谷西部地区
⑤新桜ヶ丘地区
⑥権太坂境木地区
⑦岩井町原地区
⑧岩間地区
⑨中央地区
⑩和田・釜台地区



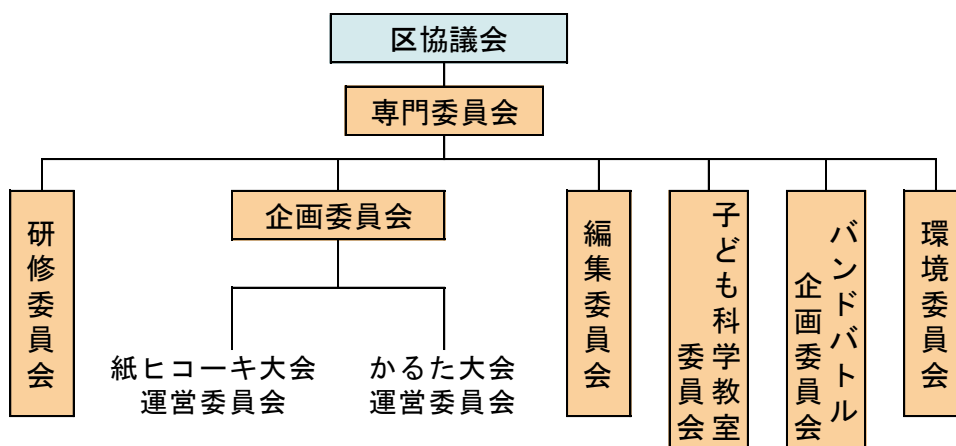
⑪上星川地区
⑫常盤台地区
⑬川島東部地区
⑭仏向地区
⑮川島原地区
⑯西谷地区
⑰上新地区

※保土ヶ谷区連合町内会
区域とは一部異なります。

<委嘱人数>

170名（平成29年9月1日現在）

<保土ヶ谷区青少年指導員協議会 組織図>



年間スケジュール

時期	事業名	時期	事業名
4月	新任者研修会 ※1	10月	全市統一行動キャンペーン
7月	保土ヶ谷区手作り紙ヒコーキ大会	11月	ほどがやバンドバトル
7月	全市一斉統一行動パトロール	1月	保土ヶ谷区新春かるた大会
9月	実技研修会 ※2	2月	理論研修会 ※2
10月	子ども科学教室	3月	機関紙「ほどがやの風」発行

※1 委嘱の年のみ実施 ※2 隔年で実施

保土ヶ谷区

■保土ヶ谷区手作り紙ヒコーキ大会

紙ヒコーキ大会は、小学2年生以下の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部、中学生以上の部の4部門に分かれて滞空時間を競います。小学2年生以下の部は折り紙ヒコーキ、それ以上の部は型紙ヒコーキを使用します。最近では家族で参加する人も増えてきています。

本選となる区の大会には各地区予選で選ばれた選手が参加できます。これまでの大会記録は平成21年の15秒11です。これを超える記録を期待したいものです。



■ほどがやバンドバトル



ほどがやバンドバトルは、1990年から始まったヤングミュージックフェスティバルが一時中断後、名称を変えて復活し、今年度で10回目を迎えます。

保土ヶ谷区内の学校に通っている中・高校生が大会に参加し、学校によっては予選を勝ち抜いてくるバンドもあり、白熱した大会となっています。

この大会は保土ヶ谷区明るい選挙推進協議会との共催で開催しており、実際に選挙で使われている投票箱で投票を行い、優勝者を決定します。

大会の進行や受付なども高校生がスタッフとして活躍し、選挙啓発マスコットのイコット Jr. の着ぐるみにも入り、大会を盛り上げてくれています。



■保土ケ谷区新春かるた大会

今年度で41回目を迎えるかるた大会は、百人一首を使い、保土ケ谷区独自のルールで実施しています。個人戦ではなく、3人1組で競うグループ競技で、目の前の人が対戦相手となります。本選となる区の大会には各地区予選で選ばれたチームが参加し、小学生、中学生、高校生以上、フリースタイル(小・中学生1名以上含む)の部に分かれてのトーナメント戦で行います。小学生、中学生の部は1回戦で勝ったチームはゴールドの部、負けたチームはシルバーの部へと進み、最低でも2回対戦できるよう進行方法も工夫しています。初心者でも楽しんで参加できる大会です。



■保土ケ谷区青少年指導員だより「ほどがやの風」



「ほどがやの風」は年1回発行しており現在第47号となりました。第34号までは2色刷りでしたが第35号からは企業の協賛でカラー刷りになりました。カラー紙面は見やすく写真を使う事でわかりやすいとの評判です。年間の活動報告を6ページにまとめ、残り2ページは独自の内容で特集記事を組み込み特徴のある広報誌を作っています。

「事業活動の活性化の推進」

旭区青少年指導員連絡協議会 会長 大野 功



私が旭区の会長に就任した平成14年度に入って、現行事業を振り返り旭区が行っている事業への子供たちの参加が、少子化、塾通いやクラブ活動等社会環境の変化を背景に年々減少傾向となってきました。そこで、既存事業の活性化を図り、子供たちに夢や希望を与える楽しみのある事業、親子で参加しやすい事業、また、旭区内に多数ある自然や公園等に恵まれ野外活動も行える場所や施設等を有効に活用した事業活動を行うことにしました。

翌年の平成15年度から新規事業として実施することになったのが、「こども写生大会」、「親子野外自然体験活動」、「大なわとび大会」の3事業、その後平成23年度からは「学校音楽祭」がこれに加わり、これら4つの主要事業を今日まで継続して実施してきております。その他、旭区民まつりや旭区民スポーツ祭、各地域の盆踊り大会や健民祭、餅つき大会など地域で行われる多くの事業や活動にも参画・協働してきております。これら数多くの事業に尽力いただいている青少年指導員の皆さんに対して、横浜市及び神奈川県青少年指導員連絡協議会には、5年から10年未満の勤続者に対する表彰規定はないため、平成26年9月に旭区独自の顕彰要領を策定し、平成27年度から永年勤続者に感謝状を贈呈することとしました。これからも事業の実施にあたりましては、地域の各種団体、学校や行政等と連携・協調して進めてまいります。

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

旭区長 池戸 淳子



このたび、青少年指導員制度が50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げますとともに、長きにわたり青少年の健全育成に努めてこられました皆様の御尽力に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

旭区では、こども写生大会、親子野外自然体験活動、学校音楽祭、大なわとび大会、研修会など、数多くのイベントを、青少年指導員の皆様を中心となり、地域の皆様の御協力をいただいで、開催してきております。こうした地域での活動は、次代を担うこどもたちの自主性、社会性といった生きる力を養う絶好の機会となっております。

青少年指導員の皆様には、今後も行政と地域社会との間であって、両者の結びつきの役割を果たされますとともに、それぞれの地域において御活躍いただきますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、旭区青少年指導員連絡協議会の活動がますます発展されることをお祈りし、御挨拶とさせていただきます。

<旭区青少年指導員連絡協議会とは>

市内18区中、旭区は青少年指導員の委嘱数が最も多く、平成29年12月時点では228名が各地域で活動しています。

旭区青少年指導員連絡協議会の会長・副会長は地区会長の中から選出されております。年間の事業計画や実施結果などは、各地区の会長と専門部会の会長で構成される地区会長会議(毎月第2水曜日の夜)で検討・報告をしています。

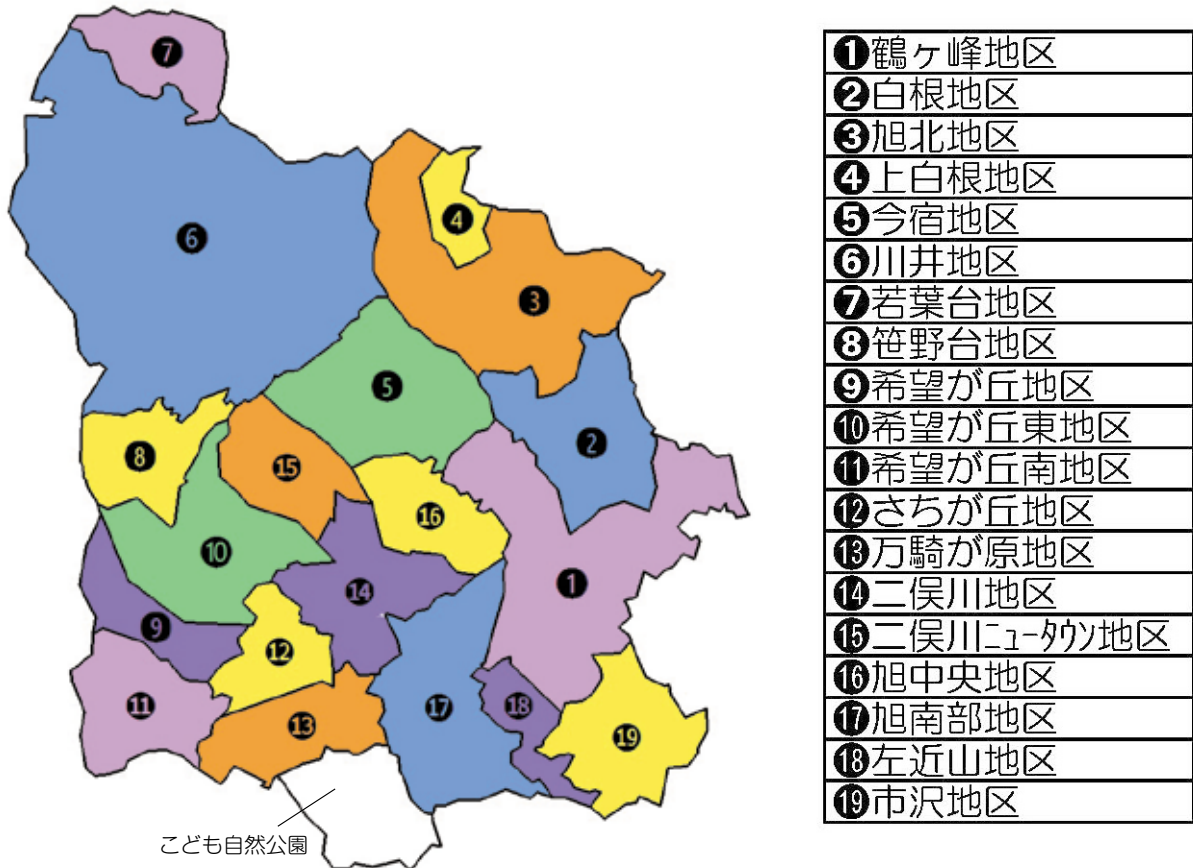
また、効果的に実行性のある活動を行うため、活動部会、研修部会、広報部会の3つの専門部会を設けています。

活動部会では、こども写生大会や親子野外自然体験活動など、旭区の青少年・親子を対象にした事業を企画・実施しています。毎年各事業に参加する児童・生徒にも楽しく参加していただけるよう、工夫を凝らしています。

研修部会では、救急法実技講習会や青少年指導員研修会など、青少年指導員のスキルアップを目的とした研修会を企画・実施しています。最近では、子どもとコミュニケーションをとるためのレクリエーションゲーム講習会が参加者から好評を得ています。

広報部会では、活動部会・研修部会が開催したイベントや各地区独自の事業をまとめた「あさひ青指だより」を年2回、自治会町内会をはじめ、区内小中学校や地域の皆様に青少年指導員の活動をお知らせするため発行しています。

<旭区青少年指導員連絡協議会構成地区図>



旭区こども写生大会

毎年9月頃、よこはま動物園ズーラシアで「旭区こども写生大会」を開催しています。

毎年の恒例行事となっており、中にはMY画板やクレヨンを持参するご家族もいます。参加方法は小学校へのチラシ配布や広報よこはまによりお知らせし、当日の呼び込みも行うなど、旭区外からも参加者がいるイベントで、29年度は267名の参加がありました。



写真は、28年度の児童が絵を描いている様子です。レッサーパンダがガラス越しの目の前で寝そべっている様子は絶好のモデルとなり、大勢のこども画伯がクレヨンを走らせていました。また、オカピの室内エリアでは仲間同士で絵を描き、弁当を食べ談笑していました。こどもたちの描いた作品は会場でスキャンをとり、後日、旭区役所で1週間展示を行いました。

旭区親子野外自然体験活動

毎年11月上旬、こども自然公園・青少年野外活動センターにて、「旭区親子野外自然体験活動」を行っています。29年度は15回目の開催となり、親子30組96名の参加がありました。

ウォークラリーではチェックポイントでクイズの正解を求めるとともに、「桜山」を散策しながら、「とりでの森・ちびっこ動物園」で一休み。丘の上から富士山も眺め

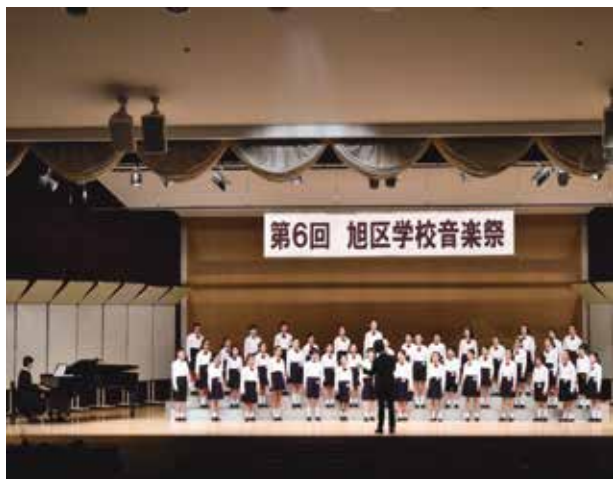


ました。

野外炊事では15のテーブルに分かれて、同じテーブルになった親子が協力し合い、焼きそばづくりを体験しました。こどもたちには仲間とのふれあい、目標に向かって協力する心、さらに後片付けの大事さも感じてくれたと思います。また、最後にウォークラリーの表彰式を行い、自然を体感しながら、とても楽しい野外自然体験でした。

旭区学校音楽祭

「旭区学校音楽祭」は、毎年12月中旬、横浜富士見丘学園中等教育学校の大講堂で行われています。



小学校、中学校あわせて十数校が参加し、合唱や吹奏楽・金管バンドの演奏が披露され、すばらしい歌声や小学生の大きな楽器を使っての演奏、また、中学生の迫力ある演奏に毎年感動をおぼえます。29年度で7年目となり、これまで参加したこどもたちは3,576名に達しました。

旭区役所との共催行事で、青少年指導員は活動部会を中心に、多くの応援スタッフが当日のステージ運営を行います。音楽祭のフィナーレには、出場校の児童・生徒や保護者、スタッフなど会場全員が一体となり「ふるさと」を合唱、楽しい恒例行事となっています。

旭区ではこの他にも、区民まつりの参加協力や研修会等を開催しています！
詳しい活動は広報等をご覧ください



旭区マスコットキャラクター
あさひくん

旭区大なわとび大会

「旭区大なわとび大会」は毎年1月下旬、横浜市旭スポーツセンターで行っております。9月～12月に各地区で行われる予選会を勝ち抜いてきた代表チームにより、跳ぶ回数を競技します。

開会式、ルール説明等の後、旭スポーツセンター職員による準備体操の指導でウォーミングアップを行います。競技は3部門で、小学校低学年の部と高学年の部、大人混合の部があります。平成23年度には2,086回という大会最高記録も出ました。



例年、準備の頃は体育館内もひんやりしていますが、競技が始まるとこどもたちの熱気であふれ、見ている保護者等も寒さを忘れる程です。旭区こども会育成連絡協議会の役員の皆様と一緒に続けてきたイベントで、29年度には15回目の開催を迎えました。

「磯子区青少年指導員のご紹介」

磯子区青少年指導員協議会 会長 小川 江一



磯子区青少年指導員協議会は、現在151名(平成29年4月現在)で活動しています。

活動の内容は「県・市一斉行動」以外に「区全体」と「地区・地域」に分かれます。区全体では「いそごこどもまつり」「夏休み作品教室」「紙ヒコーキ大会」「夏休み工場見学会」を主催し「磯子まつり」「区民駅伝」を共催しています。

地区・地域では「ペットボトル・ロケット作り」「ウォークラリー」「スケッチ画教室」等を地区独自に実施し、「祭礼、健民祭」等で各自治会・町内会に協力しています。

磯子区組織の特色は、学域部会と職域部会が存在する事です。小中学校や地域企業との連携を深めるために作られた伝統ある部会で、学校や企業から推薦された方が、独自にイベントを計画・実施し地域に溶け込んでいます。

磯子区は区制90周年事業の一環で『磯子区青少年健全育成指針』を策定しました。それに沿った対応を学校・地域・諸団体と連携して推進してまいります。

「青少年指導員制度50周年を祝して」

磯子区長 小林 正幸



青少年指導員制度が50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

一言に50年と申しましても、この間、青少年を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化しています。

そのような状況の中、皆様にはおかれましては、いつの時代も青少年の健全育成を常に考え、活動をしてくださっていることに、深く敬意を表する次第です。

昨年、磯子区は区制90周年を迎えました。磯子区では次の100周年に向け、未来を担う子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進していくため、磯子区内に青少年の地域活動拠点を開設いたしました。地域に根付かせていくためにも、地域活動の担い手である皆様のお力が必要であると考えます。

50年の記念すべき時を改めてお祝いするとともに、横浜市青少年指導員連絡協議会並びに磯子区青少年指導員協議会の更なる発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

磯子区各地区位置図

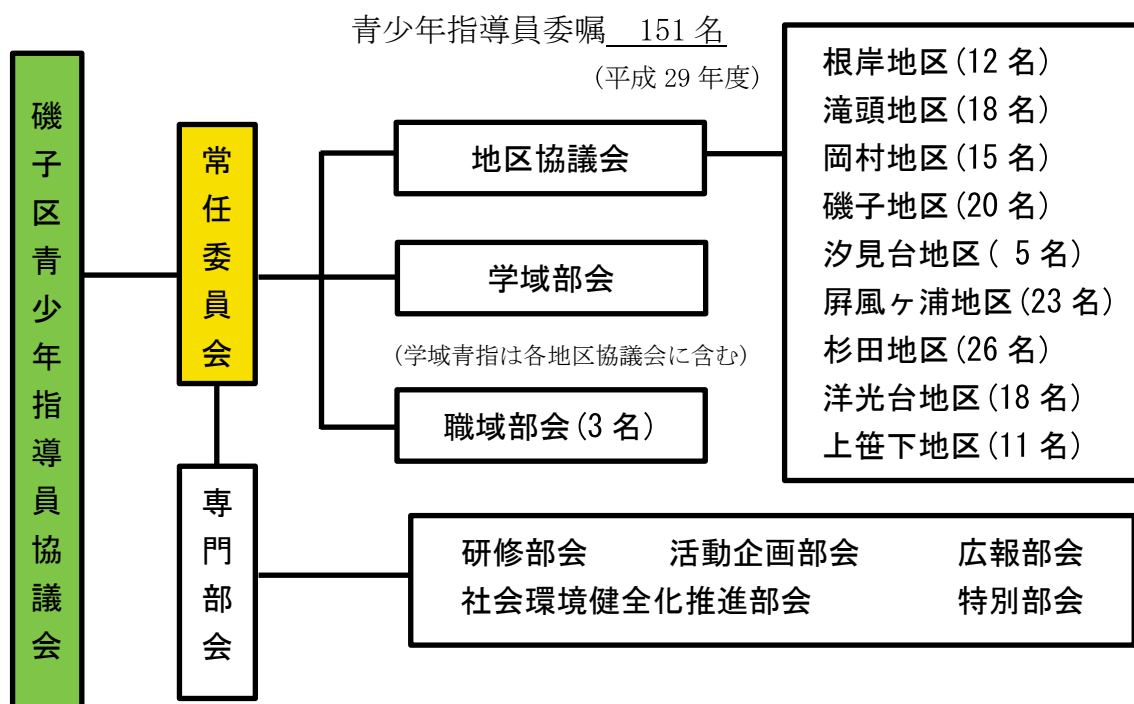


磯子区青少年指導員協議会

年間主要事業

- 5月 青少年指導員協議会総会
- 6月 青少年指導員研修会
- 7月 社会環境実態調査・有害図書
- 7月 全市一斉統一行動パトロール
- 7-8月 夏休み作品教室
- 8月 夏休み工場見学会
- 10月 磯子まつり
- 11月 全市一斉統一行動キャンペーン
- 11月 いそごこどもまつり
- 11月 磯子区民駅伝大会
- 1月 磯子七福神めぐり
- 2月 学習会
- 2月 磯子区紙ヒコーキ大会
- 3月 磯子区青指だより発行

磯子区青少年指導員協議会 組織図



磯子区青少年指導員活動50年の歩み

磯子区青少年指導員(以下:青指と略)協議会は、昭和45年(1970年)の2期目より各区とは異なり青少年育成に関わる諸団体の連携強化のため円卓会議方式により討議実践をしてきました。

昭和49年(1974年)濃密な青少年育成活動を展開し、地区の自主的活動を推進するため、円卓会議方式から地域組織(体育・青少年団体の包括、6地区体制)・職域組織・学域組織に改組して、昭和55年(1980年度)に活動企画部会、研修部会、広報部会を設置しました。

昭和56年(1981年)スケッチ画教室が始まり、現在の夏休み作品教室のもととなり、昭和58年(1983年)青指だより第1号を発刊し、夏休み工場見学会が始まりました。

平成12年(2000年)特別部会が設置され、同年現在の9地区体制となり、現在の区青指協議会の形となって、平成25年(2013年)には紙ヒコーキ大会を復活させました。



青指全員参加型研修会

学域部会と職域部会は磯子区の青指活動の第1期(S43年)から存在し、横浜市では磯子区のみ存在する組織です。

学域部会は学校と地域のパイプ役が主な目的です。所属する学校のPTA役員として地域での青少年指導員の活動をすることで、児童・生徒の地域参加をスムーズにすることができます。学域部会は長い歴史がありますが、近年の携帯電話やスマートフォンの広がり等、新たな社会問題があり、これらにも取り組む使命があります

根岸湾の埋め立てにより臨海工業地帯が出現した時代、区内には独身青年寮や通勤青年が増加しました。又、地域の商店・町工場の青年の交流と夢を育てるために、企業や商店・町工場の青年代表を青少年指導員に委嘱して(第I期は10社10名でスタート)職域部会を設置しました。社会情勢・経済情勢の変化によって職域部会への参加企業が減少しており、課題もあります。現在実施中の事業から5件を写真により紹介します。



工場見学会

磯子まつり・・・

青少年指導員は「まつり」の最大イベントであるパレードの運営・進行を行っています。



夏休み作品教室・・・

夏休みに各地区で実施された作品教室の作品を11月の「いそごこどもまつり」で磯子区役所ロビーに展示しています。



いそごこどもまつり・・・

幼児から大人まで数千名が来場する青指の一大イベントです。

磯子区青指活動事業の変遷(共催、支援事業も含む)

職域部会主催ボウリング大会	昭和45年(1973年)～平成17年(2005年)
磯子七福神めぐり	昭和53年(1978年)～平成21年(2009年) ※区内各地区事業として継続中
スケッチ画教室	昭和56年(1981年)～平成16年(2004年)
洋上セミナー	昭和59年(1984年)～平成16年(2004年)
三団体顕彰の会	昭和59年(1984年)～平成10年(1998年)
ジュニアフェスティバル	昭和62年(1987年)～平成5年(1993年)
いそごこどもフェスタ	平成3年(1991年)～平成15年(2003年)
磯子まつり	昭和52年(1972年)～現在
夏休み工場見学会	昭和58年(1983年)～現在
磯子区青指だより	昭和58年(1983年)～現在
有害図書・自販機調査	昭和61年(1985年)～現在
社会環境実態調査	平成12年(2000年)～現在
全市一斉統一行動パトロール	平成12年(2000年)～現在
全市一斉統一行動キャンペーン	平成12年(2000年)～現在
学習会	平成16年(2004年)～現在
いそごこどもまつり	平成16年(2004年)～現在
夏休み作品教室	平成17年(2005年)～現在
区民駅伝大会	平成21年(2009年)～現在
磯子区紙ヒコーキ大会	平成25年(2013年)～現在

磯子七福神めぐり・・・

現在は各地区事業として実施しています。



全市一斉統一行動

パトロール・・・地区単位で実施しており、概ね問題行動はありません。



「青少年指導員制度50周年を迎えて」

金沢区青少年指導員協議会 会長 小林 利彦



昭和44年に発足した横浜市青少年指導員制度は、平成30年度に50周年を迎えます。平成3年に発行された横浜市青少年指導員20周年記念誌に因りますと、青少年指導員は、少年指導員と社会教育協力委員などが、一緒になってでき、市の連絡協議会は昭和48年3月に発足したそうです。

発足当初は、青少年指導員要綱や活動目標も無く手探り状態だった様で、諸先輩方のご苦勞が目に浮かびます。

当時の金沢区青少年指導員協議会も一部の地域では、スポーツ推進委員やPTA連絡協議会などの団体から推薦された指導員が勤労青年やジュニアクラブの対応をメインに活躍していました。

現在金沢区では、海の公園や野島青少年研修センターを利用し、青少年健全育成活動を行っています。

50年の節目にあたり、今までの活動を振り返り、経験を活かしながら次世代の子どもたちに対し、横浜市青少年指導員連絡協議会として、各区で共通した健全育成事業を行っていくのが望ましいのではないのでしょうか。

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

金沢区長 國原 章弘



このたびは「50周年記念誌」の発刊、心よりお祝い申し上げます。青少年指導員の皆様には、日頃から地域の青少年の健全育成にご協力いただきまして、大変感謝しております。

近年、インターネットやスマートフォンなどの普及により、青少年は間接的に様々な情報に晒される一方、何かを直接的に体験して学びとる機会が少なくなったと感じております。そのような中、皆様が企画するキャンプ「ジュニアサマー金沢」をはじめとした様々な体験活動は、かつて自然や地域社会と関わることで育まれてきた、集団の中でルールを守ること、主体性を持って行動すること、仲間を思いやることなどを青少年が身体を通して学びとる貴重な機会になっていると考えております。金沢区は来年、区制70周年を迎えますが、これからも皆様とともに、未来を担う青少年の健全育成を行ってまいりますので、益々のご尽力を賜りますことをお願いし、お祝いの言葉とさせていただきます。

<金沢区 構成地区図>



各地区の人員構成
(平成29年10月現在) 127人

地区名	人数
富岡第一	6人
富岡第二	5人
富岡第三	5人
富岡西・能見台	2人
能見台	8人
シーサイドタウン	21人
金沢東部	8人
金沢中部	7人
金沢南部	6人
金沢	10人
六浦東	9人
六浦	8人
六浦西	16人
釜利谷	16人

<金沢区青少年指導員協議会 概要>

金沢区青少年指導員協議会は、金沢区14地区の青少年指導員によって構成されています。協議会は、各地区の青少年指導員の活動を円滑にすすめるため、各地区に地区協議会をおき、各地区協議会の会長、協議会役員として会長1名、副会長2名、会計1名を集め、年一回の総会、月一回の役員会を開催しています。また、協議会の活動の運営・協議のために目的に応じた三つの部会を設けています。

- ・行事部会

ジュニアサマー金沢やいきいきフェスタ出店などのイベントを企画します。

- ・広報部会

年二回（3月・9月）発行の広報誌「Youth 21」の編集を行います。

- ・育成部会

スクールゾーンキャンペーンなど見守り活動の啓発に努めています。

以上のような構成をもって、青少年指導員の円滑な活動の実現と、さらなる青少年健全育成のために、日々活動しています。

金沢区青少年指導員協議会 活動紹介

金沢区青少年指導員協議会では、青少年健全育成のために、地域の皆様と協力し様々な活動を行っています。ここでは、主に金沢区青少年指導員協議会が主催している活動と、各地区で実施している活動についてご紹介します。

ジュニアサマー金沢

夏休み中の地域の子どもたちのために、夏の自然を満喫できる宿泊イベントを毎年開催しています。このイベントには、団体行動による自然体験活動を通して、子どもたちに多くのことを経験し学んでもらいたいという私たちの思いが込められています。企画した行事部の方々だけで実施するのではなく、金沢区各地域の青少年指導員の方々のお手伝いや、看護師の方の協力で、毎年盛大に開催されています。平成27年度までは、「ジュニアサマーキャンプ」として山梨県道志村でキャンプを開催していましたが、平成28年度からは、地元金沢区の自然により親しんでもらおうと、開催場所を金沢区に移し、イベント名を「ジュニアサマー金沢」としました。平成29年度開催の「ジュニアサマー金沢」では、金沢区の共催で、会場を横浜市野島青少年研修センターとして以下の様な体験プログラムを提供しました。



参加した子どもたちと
山田陽治先生

- ・カヌー体験 … 一人乗りのカヌーに乗り、野島水路の水上散歩を楽しみました。
- ・フォトラリー … 野島公園を舞台に、ヒントの写真と同じ公園内の風景を探しながらゴールを目指しました。
- ・漁師体験 … 自分達でペットボトルを使って仕掛けをつくり、魚やカニを捕獲しました。
- ・キャンプファイヤー … 火を囲みながら、各班ごとに企画した出し物を披露しあい、楽しい時間を過ごしました。
- ・磯遊び … 野島海岸の自然海浜内の干潟で生き物観察を行います。今年はNHKの番組などでも活躍されている、自然体験教育コーディネーターの山田陽治先生による特別授業も行われました。

大変好評をいただいたので、平成30年度以降も、野島青少年研修センターを会場として毎年開催していきたいと考えています。



カヌー体験



磯遊び



山田陽治先生
特別授業

スクールゾーンキャンペーン

金沢区の小学校と連携して、地域の子どもたちへの見守り活動を啓発する「スクールゾーンキャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、地域・家庭・学校が一体となって青少年を見守る機運を高め、活動の実行につなげていくことを目的としています。

毎年、金沢区の小学校の一つに開催を依頼し、その小学校の先生方やPTAの方々と連携して、小学校の学区(スクールゾーン)を歩きます。途中、通学路に面する家庭のポストにチラシを投函したり、行き会った方々にチラシを配るなどしています。

今後も、こうした活動を通じて、小学校のスクールゾーン周辺の住民の方々に、子どもたちの安全を温かい目で見守ってくださるよう「見守り活動」の周知・啓発・協力依頼を行って参ります。



平成28年 釜利谷東小学校
出発式の様子



スクールゾーンをPTAの
皆さんと歩きます

地区イベントの開催・協力

そのほか、金沢区各地区で、青少年健全育成イベントの開催や、地域のイベントへの協力を行っています。また、毎年10月に開催される「金沢まつり いきいきフェスタ」では、青少年指導員のコーナーを出展し、青少年指導員の活動をアピールすると共に、子どもたちが楽しめる工作コーナーなどを催しています。



みかん狩り



じゃがいも掘り



地域見学会



いきいきフェスタの出展



ペンシルバルーンコーナー



折り紙コーナー

「青少年指導員制度50周年記念誌発行に寄せて」

港北区青少年指導員協議会 会長 石井 一也



国際港都横浜の北に位置する港北区は、現在の人口34万8千人を超える市内最大のマンモス区です。青少年指導員制度50周年の記念すべき節目を迎え、諸先輩が築いてこられた足跡と、将来に向かっての方向性を誌面に記せば幸いです。

昭和43年の制度発足以来、現在では全市で約2,700名が県知事・市長より委嘱を受け、当区では164名が青少年の健全育成に取り組んでおります。

近年は特に「少子化」「核家族化」そして「インターネットの急激な発展」による青少年を取巻く環境は将に激変しております。合理化を推し進める余り、「人間としての原点」を見つめ直さなくてはなりません。「デジタルからアナログへ」と舵をきり、いのちの大切さ・優しくあたたかな心・より人間らしくをテーマに掲げ、引続き青少年の健やかな成長を見守るための「地域づくり」に青少年指導員各位の更なるお力添えをお願い致したく存じます。幼い時から自然環境下での実体験により、さまざまな命を見つけ、触れ、それを感じるセンスを身につけることの大切さを、幼い子を持つ親、ひいては我々大人が感じ取り、次世代へ受け継がれて行くよう祈念致しております。

「青少年指導員制度50周年を祝して」

港北区長 横山 日出夫



青少年指導員制度50周年、誠におめでとうございます。

皆様には半世紀もの長きにわたり、青少年の健全育成に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

青少年との関わりや信頼関係は、短い期間で簡単に築けるものではなく、長きに渡る地道な活動によって得られるものです。

社会の環境が大きく変化し、人と人との関係性や、地域の繋がりが薄くなりがちになる中、様々な取組を通じて、地域や家族の温かみ、命の大切さを子ども達に伝え続けてきた青少年指導員の皆様の活動は、本当にかげがえのないものです。

港北区では、「活気にあふれ、人が、地域がつながる『ふるさと港北』」を基本目標に、地域の皆様とともにまちづくりに取り組んでいますが、青少年指導員の皆様はまさにその取組を実践していただいているものです。これからも青少年が明るく豊かに育まれるまちとなるよう、ご支援をお願いいたします。

50周年を契機に、青少年指導員の皆様が今後ますます活躍されますことを、心より祈念申し上げます。

<港北区の歴史>

昭和 14 年 4 月に港北区が誕生しました。当時は、現在の港北区、緑区、青葉区、都筑区をあわせた区域で、人口は約 5 万人あまりでした。

昭和 44 年に緑区（現在の緑区、青葉区及び都筑区の一部）を分区、さらに平成 6 年 11 月に行政区再編成により区の北西部地域が都筑区に編入されて現在の港北区になりました。

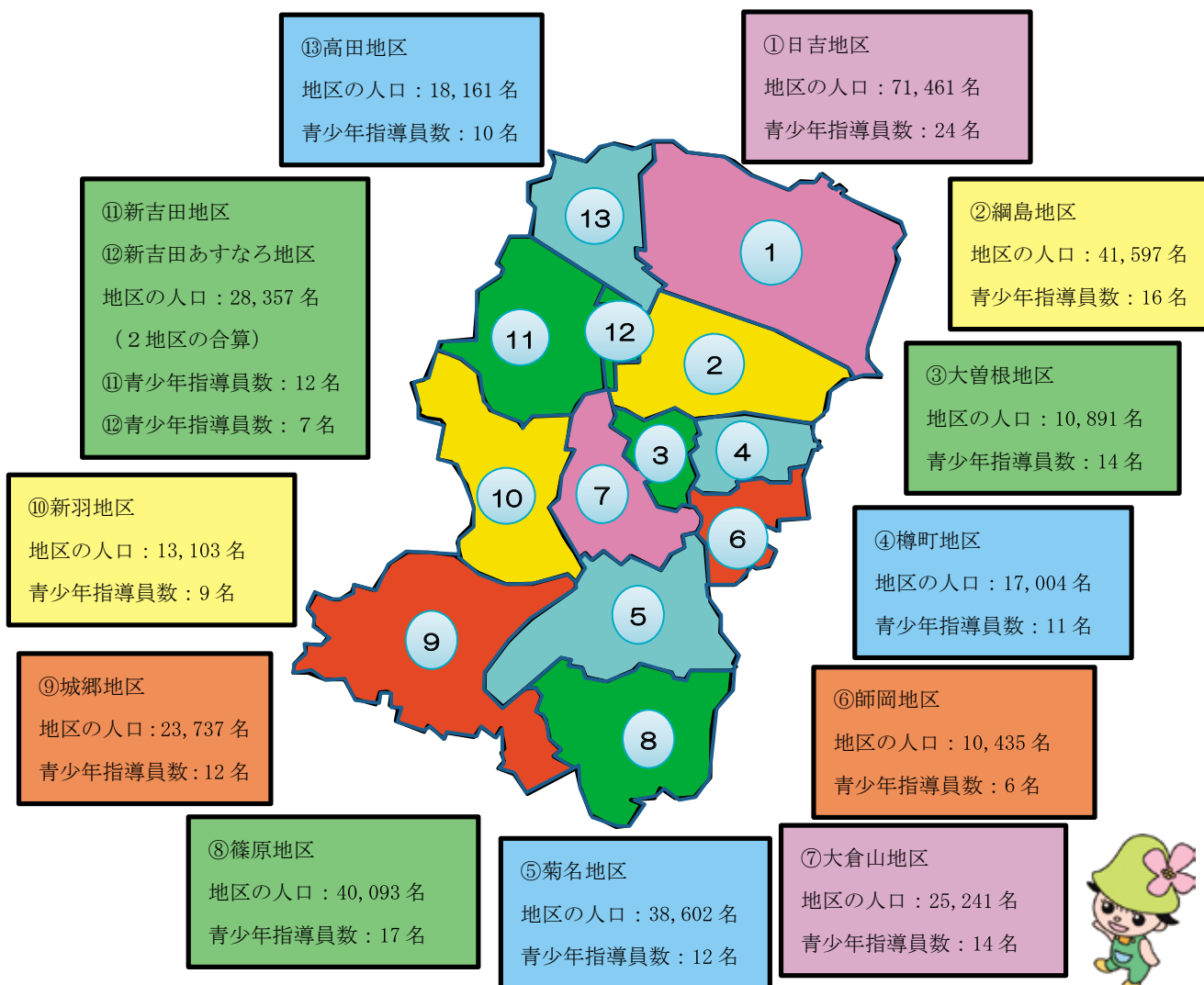
港北区は横浜市の北部に位置し、人口は全 18 区中最大の 34 万 8,553 人（2017 年 7 月 1 日現在）です。区民の平均年齢も 3 番目に若く、活気のある区です。

<港北区青少年指導員協議会組織>

- ◆会 長 会：協議会の最終決定機関
- ◆広報委員会：広報誌の発行（年 2 回）
- ◆実行委員会：区行事の運営
- ◆ホームページ委員会：区ホームページの管理・運営
- ◆青少年指導員委嘱者数：164 名（平成 29 年 4 月 1 日現在）

<港北区概要>

- ◆港北区人口・・・34 万 8,553 人
- ◆面積・・・31.37 km²
- ◆区の木・・・ハナミズキ
- ◆区の花・・・ウメ
- ◆区のキャラクター：ミズキー



※地区の人口：平成 28 年 9 月現在（参考データ：住民基本台帳データ参照）

ひと声かけ運動・はひとふるネット

この運動は港北公会堂での発足会(2001年7月)から現在まで続いている活動です。昨今、いじめ・暴力・自殺・殺人・性的犯罪・放火・薬物乱用・幼児虐待・誘拐・恐喝・ひったくり・万引きなどの事件と青少年の関わりは深刻な社会問題となっています。その発生要因の一つとして青少年ひとりひとりが孤立化し、さみしさから自分の殻に閉じこもりがちになり心が荒んでしまうということがあります。



【中学生へのひと声かけ運動】

心のさみしさ、悲しみを癒す要素として、「T a l k = 親身になって話をする」

「T e a r = 涙させてあげる」「T i m e = 間をとってあげる」の3つのTがあるとされています。

しかし3Tを実践する信頼関係を築くには5年10年という長いスタンスの関わりが必要です。そこで港北区では、青少年と関わる第一歩として、「おはよう・こんにちは」から始める「ひと声かけ運動」を実施しています。



ペットボトルロケット大会

今年度で21回目の開催となるペットボトルロケット大会はふるさと港北ふれあいまつりの一環として、毎年秋季に鶴見川河川敷の樽町公園にて行われており、毎回多くの親子連れが参加します。

この大会は、ペットボトルのリサイクルを通じて、子どもたちに環境問題を考えてもらうきっかけとしています。7月から8月にかけて、区内13地区で製作講習会および予選会を開催し、9月の港北区大会では、予選会を突破した「地区選抜」と「一般参加」の300名を超える参加者で上位入賞を競います。ロケットのデザインを競う部門も毎年趣向を凝らした作品が展覧され

【平成26年8月25日(月) 神奈川新聞社提供】

ます。一生懸命作ったロケットが、勢い良く飛び出した時の、感動と喜びに溢れた子どもたちの顔を見ることが、青少年指導員みんなの喜びです。



【ペットボトルロケット発射】



【デザイン部門のロケット】

自然体験教室

当たり前になっていたメダカ・オタマジャクシ・トンボ・いろいろな鳥たちが最近いなくなってしまったことの重大さを、特に幼い子を持つ親、ひいては我々大人が感じとり、それを次の世代を担っていく子供たちに実体験を通して体得させることが重要なポイントです。

一向になくならない、いじめ、虐待、自殺等によりかけがえのない尊い命が奪われています。「命は何よりも代えがたい 大切なものなんだ」ということを、自然環境を通じた教育で伝えることが必要です。地球という一つの星で、3千万種の生物と一緒に暮らしていることを肌で感じ、共存していくために、考え、努力していかなくてはならないことや「命を感じるセンス」を育み、私たち人間がその環境を守っていかなくてはならないんだという思いを持った「本当のやさしさ」を身につけた人間への成長を願った活動です。



【参加者全員集合の記念写真】

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

緑区青少年指導員連絡協議会 会長 松浦 正義



青少年指導員制度が発足してここに50周年を迎えましたこと、心よりお喜び申し上げます。青少年指導員制度50周年記念事業として開催した横浜市青少年指導員研修会では、光栄にも緑区が幹事区を務めました。正副会長会、企画部会、広報部会が成功に向けてスクラムを組み、逞しくなっていくのを強く感じました。

私どもは「子どもたちと防災意識を共有できる街を目指して」を研修会テーマとし、講演では東京大学特任教授の片田氏より、「子どもたちの生き抜く力を育む防災教育」を学びました。当区協議会では、平成28年度より防災意識を育むことをテーマに、次世代を担う青少年が防災へ興味・関心を持つことに重点を置いた体験型イベントをスタートしました。人と人との関係性が希薄になりがちな今日において、改めて地域における結束力を高める活動を継続していきたいと思います。

各区の青少年指導員の皆様からご指導を頂戴しながら、緑豊かなこの土地で生まれた子ども達をこれまでも、そしてこれからも温かく見守っていきたいと思います。

「50周年記念誌の発行によせて」

緑区長 小野崎 信之

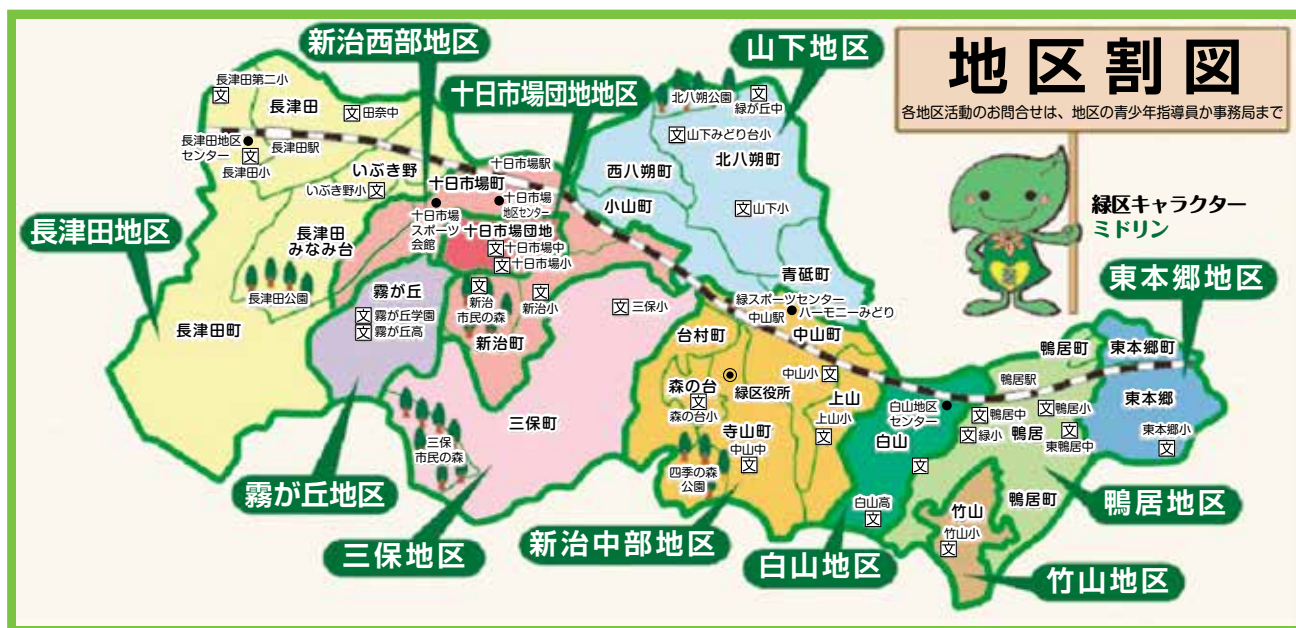


横浜市の青少年指導員制度が発足して50周年を迎えられたことをお祝いいたしますとともに、長年にわたるご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

緑区も平成31年には区制50周年を迎え、長い年月を共に歩んでまいりました。この間、核家族化の進行や近隣関係の希薄化、インターネット、SNS等によるコミュニケーション手法の変化など、青少年を取り巻く環境は大きく様変わりしています。このような時代だからこそ、人との触れ合いや社会体験の場となる地域の青少年育成活動は、ますます重要になっていると考えます。

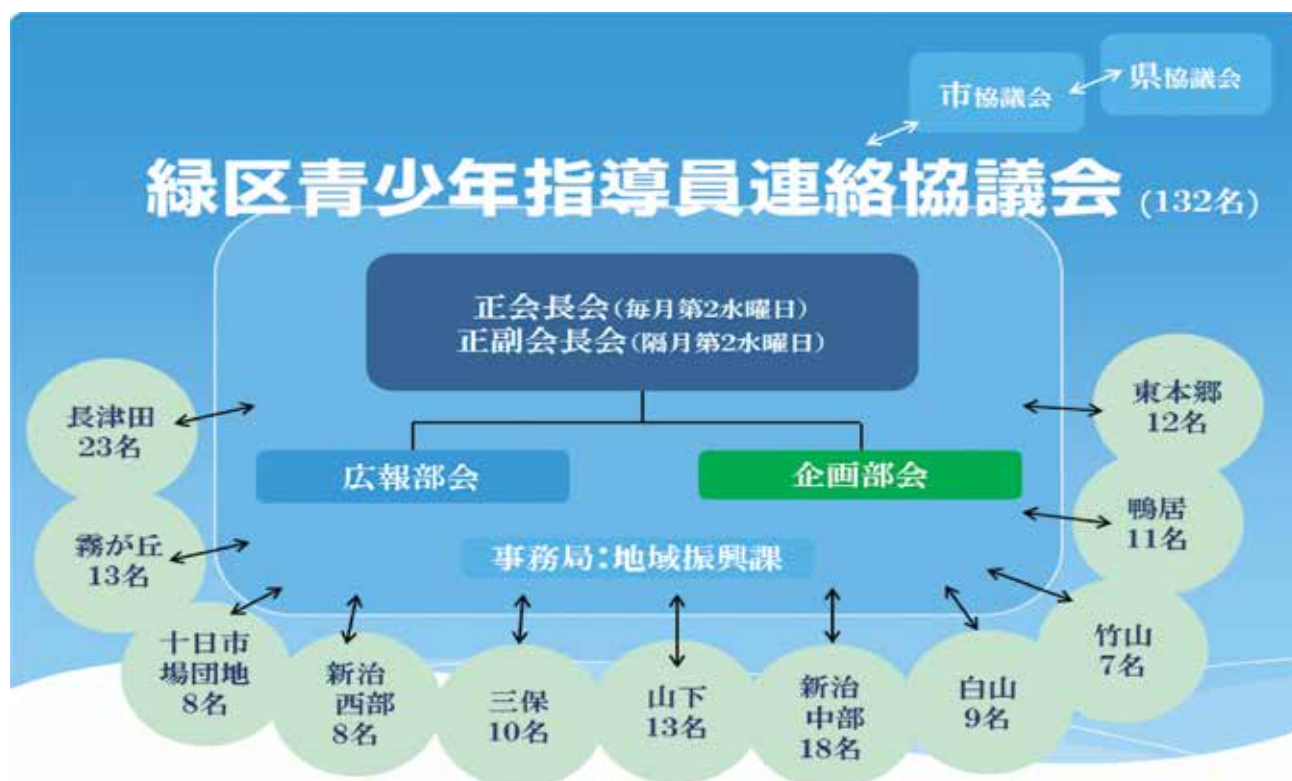
緑区においては、「防災」を通じた自助・共助の精神の養成、地域でのお祭りや運動会による交流、パトロールを通じた子どもの見守り等、様々な活動を実践していただいております。心より感謝申し上げます。

結びとなりますが、各区の青少年指導員の皆様相互の連携・交流が益々盛んになるとともに、それぞれの会がさらに発展しますことを祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



＜年間活動＞ ※平成29年度 ★下記以外にも各地区それぞれ地区特有の事業に積極的に参加しております。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 7月 2日 緑区青少年指導員夏季研修 | 11月 5日 全市一斉統一キャンペーン活動 |
| 7月 8日 青少年の健全育成を進める県民大会 | 11月12日 神奈川県青少年指導員大会 |
| 7月22日 全市一斉統一行動パトロール活動 | 11月26日 ゲームで学ぼう！防災イベント |
| 7月～8月 社会環境実態調査 | 1月 8日 「成人の日」を祝うつどいに係る協働 |
| 9月10日 横浜市青少年指導員研修会 | 2月17日 横浜市青少年指導員大会 |
| 10月15日 緑区民まつり | 2月25日 緑区青少年指導員冬季研修 |





みどりさわやかロードレース大会

(十日市場団地・新治西部・三保地区合同イベント)

第14回みどりさわやかロードレース大会が平成30年1月7日(日)午前9時十日市場中学校校庭で小学3年生男子、女子からスタートしました。

このロードレースは、十日市場団地、新治西部、三保連合自治会と十日市場中学校と中学校区、新治、三保、十日市場小学校が協力して運営しています。当日は小学生242名、中学生259名、一般17名合計518名の参加がありました。

ティーボール大会

(山下地区)

山下地区青少年指導員は、山下連合自治会主催のティーボール大会・体育祭・マラソン大会並びに山下地区青少年育成会の各種事業や研修会・デイキャンプ等の行事に参加協力しております。

右の写真は平成29年5月21日に開催しましたティーボール大会の様子です。



キャンプ

(鴨居地区)

鴨居地区では毎年、夏休みに鴨居小学校をお借りして、ワクワクキャンプを実施しています。約200人が参加し、中学生がジュニアリーダーとして子ども達をまとめます。中学生は各班の児童を妹や弟のように接し、小学生は中学生をお姉さん、お兄さんのように慕っています。

食事の後はキャンプファイヤーの周りで踊ったり、おやじバンドの演奏を聞き、体育館でのゲーム、映画鑑賞をして思い出深いキャンプになります。天を焦がすほどのキャンプファイヤーは一見の価値有ります。

鴨居青少年指導員その他、鴨居小PTA、鴨居おやじの会、鴨居連合自治会の協力でワクワクキャンプは成り立っており、地域の大人同士の繋がりをも強める活動になっています。

ゲームで学ぼう！防災イベント

小学生を対象とした防災啓発イベントを平成28年度からスタートしています。防災にちなんだゲームをスタンプラリー形式で楽しむことで、防災意識を自然に身に付けるきっかけづくりとなることを目指しています。



横浜市青少年指導員研修会

平成29年度は緑区で横浜市青少年指導員の研修会を行いました。緑区青少年指導員連絡協議会では1年以上をかけて、本研修会の準備をしてきました。おかげさまで、お呼びした講師の防災啓発講演をはじめ、三保地区の「ハミングバード」のみなさんの演奏、事業紹介の評判も良く、緑区での各地区特有の取組もしっかりとお伝えすることができました。



三保地区「ハミングバード」のみなさん



東京大学特任教授の片田敏孝氏



緑区事業紹介パネル展示

「青少年指導員制度50周年」を迎えて

青葉区青少年指導員連絡協議会 会長 金子 茂文



青少年指導員制度50周年を迎えるにあたり、ご家族・地域・関係機関の皆様には深く感謝いたします。昭和43年といたしますと、東急田園都市線が開通(昭和41年)した翌々年であり、まだ港北区でした。

私が青少年指導員になった平成2年は緑区で、当時ジュニアフェスティバル・紙ヒコーキ大会(第5回)が開催されており、各区の代表の子供達が、横浜文化体育館で「滞空時間」を競い盛り上がり、私の地域では今も「紙ヒコーキ大会」として続けています。

平成6年に誕生した青葉区も、50年前は一面が山・畑・田と自然そのものでしたが、現在は30万都市となり、11月の「青葉区民まつり」では、公会堂での「ステージイベント」、地域で活動している子供達には「ライブパフォーマンス」を幼・小・中・高校生の発表の場として青指が一体となって計画運営しています。

私達を取り巻く環境は大きく変貌してまいりましたが、これからも子供達に夢や希望を育みながら歩み続けて行きたいと思えます。

「青少年指導員制度50周年記念誌に寄せて」

青葉区長 小池 恭一



青少年指導員50周年記念誌の発行おめでとうございます。

日頃より地域の活動とともに青少年の健全育成に向け御尽力を賜り心より感謝申し上げます。

青葉区は「住みつづきたい・住みたいまち青葉」を実現するため、「未来をつくる子ども・青少年一人ひとりが、様々な力を育み、健やかに成長できるまち」を目指し、青少年支援を柱の一つとする「あおばこどもシステム」を立ち上げ、乳幼児期から青少年期まで切れ目のない支援体制の構築に取り組んでいます。

青少年育成の総合的な推進には、地域のみならず、専門機関、企業、区役所が連携し協力することが肝要で、青少年指導員のみならずには、その中心となってこれからも一層の御参画を賜り、夢と希望あふれる横浜をともに築いてまいりたいと思えます。

今後とも、引き続きの御支援と御協力をお願い申し上げます。

青葉区青少年指導員連絡協議会 概要

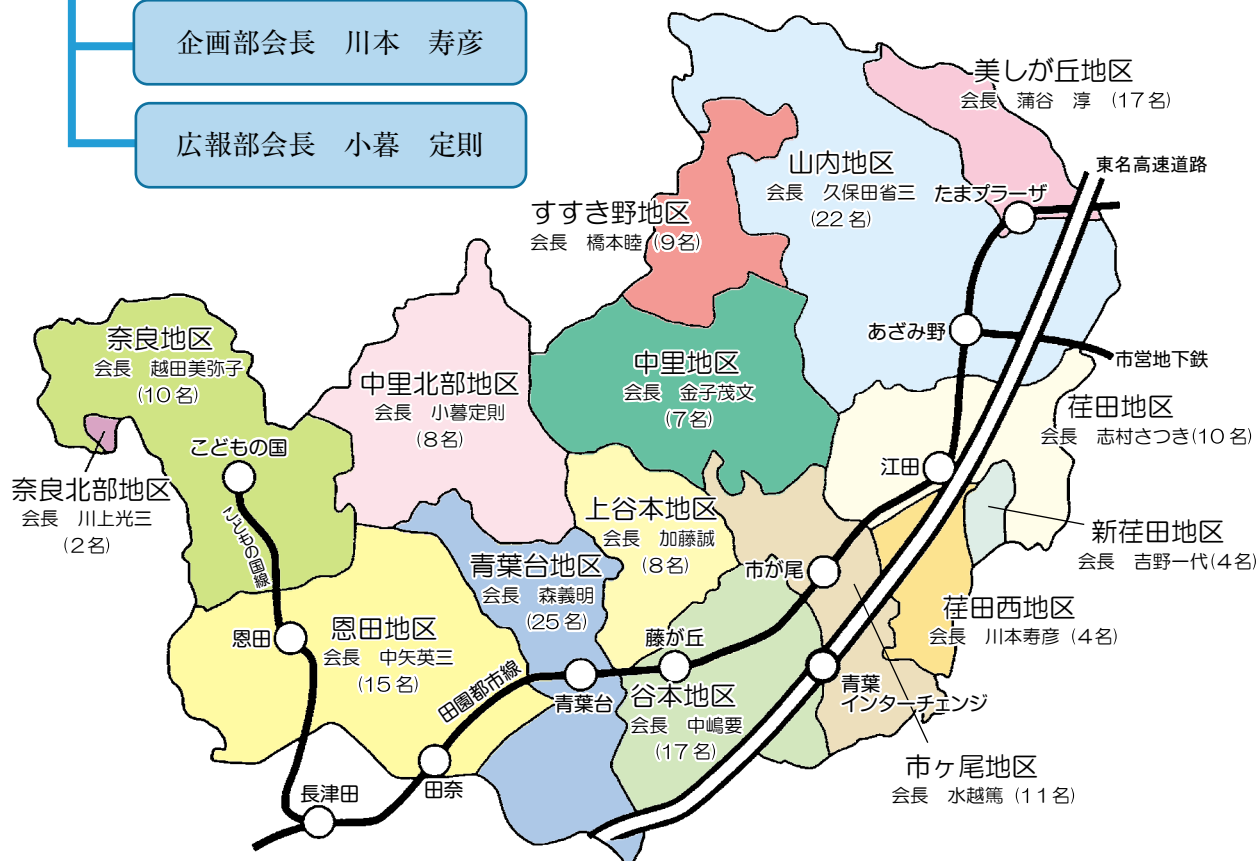
青葉区青少年指導員連絡協議会

会長 金子 茂文
副会長 森 義明
副会長 越田美弥子

青葉区青少年指導員 【15地区・169名】

企画部会長 川本 寿彦

広報部会長 小暮 定則



横浜市の北部に位置する青葉区は、市内第一位の公園数(230)と街路樹数(15,409本)を有し、今年度は、区内を花でいっぱいにする「フラワーネックレス青葉2017」に取り組んでいます。区を中心を南北に鶴見川が流れ、川沿いには田園風景が広がり、緑豊かで閑静な美しい街並みとなっています。

青葉区役所を中心とした東エリアには、音楽に最適な音響空間を提供する「フィリアホール」、創造文化の出会いの場を作る「横浜市民ギャラリーあざみ野」があり、芸術・文化的な香りも併せ持つ「魅力的な街」となっています。また、横浜都心方面には「あざみ野駅」から市営地下鉄があり、東名高速青葉インターチェンジからは自動車専用道路の横浜環状北西線の工事が進められ、湾岸エリアへの利便性もますます高められます。区の西部は「こどもの国」や「寺家ふるさと村」など自然を生かしたエリアが広がっています。「自然が豊かで文化的で魅力ある街」の特徴を生かして、青少年の健全育成を目指して、青少年指導員169名の知恵と汗を絞り、地域ぐるみの活動を展開しています。

活動の紹介

青葉区青少年指導員連絡協議会は、年間を通して様々な行事やイベントを企画・運営していますが、主要な3大イベントと、それぞれの地区密着形で取り組んでいる代表的な活動イベントをご紹介します。

◆「青葉区民まつり」

青葉区民まつりのテーマ『地域力～共に進もう心の絆を青葉から』を共有して、青葉公会堂と屋外ステージ（区役所第二駐車場）で行うステージイベントを、参加団体の決定から当日のタイムキーパーをはじめ照明・音響に至るまで、幅広い企画・運営を企画部員15名を中心に青少年指導員77名が行っています。

今年度は、小学校6校、中学校3校、高校4校、364名の皆さんが、ダンスや吹奏楽・太鼓などを披露しました。また、一般公募8団体143名によるライブパフォーマンスも組み込まれています。

本年度のアンケート結果も「また参加したい」「運営が素晴らしかった」「出演者がいきいきとして楽しんでいた」など、出演者・入場者からも大好評でした。



中学生による楽器演奏



事前ミーティング

◆「青葉区民マラソン大会」

青葉区役所をスタート・ゴールとする10kmのマラソンコースを、区民ランナー800名が安全に完走するためのサポートスタッフとして、ランナーの受付・案内からコース・会場整理と、交通規制対応を青葉区の各団体と協力しながら、青少年指導員60名が毎年参加協力しています。



ミーティング後の集合写真



交差点での交通規制対応等



◆「青葉区研修会 in くろがね青少年センター」

青少年指導員の役割・活動について理解を深め、能力向上を図る目的で、くろがね青少年センター講師から、アイスブレーキング、体操などの指導を受けました。また、災害時等の野外炊事として、すいとん入り豚汁作りやバウムクーヘン講習などに50名の青少年指導員が励みました。



すいとん入り豚汁作り

◆「ふれあい音楽会」(上谷本地区)

中学校の吹奏楽部と子ども会の協力をいただき、100名の子ども達と40名の保護者の皆様を迎えて、「ふれあい音楽会」を毎年開催しています。日頃手にすることができない楽器に手を触れ、演奏の模擬体験ができて、子どもたちは目を輝かせていました。



中学生から指導を受けて模擬演奏



青葉区マスコット「なしかちゃん」

◆「ふるさと祭りでの中学生との共同運営」(荏田西地区)

地元の多くの人に参加するふるさと祭りを、たくさんの中学生と盛り上げたいとの思いから、屋台の共同運営を試みました。中学生は、屋台の準備・仕入れ～販売・利益管理など、実際の企業経営に携わり組織や経営の仕組みを学ぶことができました。お祭りも大成功をおさめ、中学校からも高い評価をいただきました。



わたあめ作り

【平成29年度年間イベントスケジュール】

月	合同イベント
7月	救急法講習会
7月	環境パトロール
9月	野外研修会
11月	区民まつり
11月	統一行動キャンペーン
11月	区民マラソン大会
3月	交流会

地区イベント
ドッジボール大会、グランドゴルフ大会、ラジオ体操、映画のタバ
電車工場見学、夏祭り、盆踊り、秋祭り、ふるさと祭り
ストラックアウト、縄跳び大会、各種運動会・体育祭
スポーツ大会、ウォークラリー大会、収穫祭、焼き芋大会
焼き芋・バウムクーヘンの会、餅つき大会、書初め大会
紙ヒコーキ大会、星を観る会、どんど焼き など

「元気な子どもたちとともに」

都筑区青少年指導員連絡協議会 会長 村田 幸夫



横浜市18番目の区として誕生した都筑区は、平均年齢が若く、子育て世代も多い区です。新しい区民に区の魅力をもっと知ってもらうために始めた、緑道を使ったイベント「つづき発見ウォーク」は、中高生による演奏や演技の場も加えた「つづきウォーク&フェスタ」に発展し、都筑区の秋の一大イベントとなりました。今では、毎年約700名の参加者に、日々変わりゆく都筑の街並みを散策してもらっています。過去には、大塚・歳勝土遺跡の竪穴式住居での宿泊体験や、火おこし体験を実施しました。また、地区活動として、凧作り・凧揚げ大会や、じゃが芋堀体験など、各地区で特色のある活動をしています。

私たち青少年指導員は、活動を通して「子どもたちが、健やかに、のびのびと育てほしい」という共通の思いから、地区や団体を越えた「つながり」をつくって活動しています。つながりをつくることで、多種多様な人たちとめぐり合うことができ、自分自身にも新たな発見があることが、活動をする楽しさであると感じています。今後もその楽しさを子どもたちにも体験してもらえるように、サポートしていきたいと思っています。

「ふるさと感じる都筑を築くために」

都筑区長 畑澤 健一



青少年指導員制度50周年を迎え、ここに記念誌を発行されますこと、心からお祝い申し上げます。

都筑区では、区の誕生とともに、都筑区青少年指導員連絡協議会が設立され、共にあゆみを始めてから今年で23年を迎えました。この間、人口は倍増し21万人を超え、青少年指導員の皆様も大きく増えました。

昨今、子どもたちが多様な関わり合いの中で豊かな人間性を育む場が減少しているといわれる中、青少年指導員の皆様は、いかに地域で関われる場を創出するか活発に議論し、形にして実践していただきました。都筑区の魅力である緑道で中高生と参加者が触れ合う「つづきウォーク&フェスタ」や、青少年関連施設や団体と連携した140以上のプログラムから小中高生が自ら選び、多世代と触れ合うボランティア体験「はあと de ボランティア」は、都筑区ならではの素晴らしい取組であると感じています。村田会長をはじめ青少年指導員の皆様の熱心な取組やご尽力に、心から感謝申し上げます。

これからも、青少年指導員の皆様と一緒に、ふるさと感じる都筑を築いていきたいと思っています。引き続きよろしく申し上げます。

■つづきウォーク&フェスタ (11月23日)※旧「つづき発見ウォーク」

歩いて感じる都筑の魅力

港北ニュータウン独自の魅力資源である緑道や公園を巡りながら、区にまつわるクイズを解いて回る「ウォーク」、そのゴール地点では、中学校吹奏楽部による演奏や高等学校ダンス部・バトン部による演技を披露する「フェスタ」を融合させたイベントです。区誕生の翌年の平成7年度から続いています。

運営ボランティアとして中学生に協力してもらうことで、普段関わる機会が少ない年代の人や地域の人と交流できる場にもなっています。



■はあと de ボランティア

～中高生のための夏休みボランティア体験～ (7月～8月)

ひと夏の体験が宝物に

毎年夏休みには、中高生を対象としたボランティア体験事業を実施しています。平成20年度に開始し、平成27年度からは小学校高学年向けのプレコースも同時開催しています。

参加した子どもたちは、学校も年齢も違う、初めて出会う人たちに緊張しながらも、ボランティアとして自分にできることを考えて体験することで、ひと夏で大きく成長していきます。また、サポートした大人にとっても、子どもたちや地域の可能性に気づくきっかけになっています。



■都筑区青少年支援者育成講座(青少年指導員研修会) (年2回)

青少年指導員のスキルアップのための研修会や青少年健全育成に携わる方たちに向けた講座を実施しています。他地区や他団体と、つながりができる機会です。



■主な地区活動

●都田地区

じゃがいも掘り&カレーライス



●池辺地区

夏休み体験教室・そうめん流し



●東山田地区・山田地区

凧作り・凧揚げ大会



●川和地区・ふれあいの丘地区

凧作り・凧揚げ大会



●中川地区…チャンピオン大会、区民まつりで中学生による販売体験

●勝田茅ヶ崎地区…夏祭り、茅ヶ崎中学校ふれあい祭

●かちだ地区…習字・墨絵教室、勝田団地盆踊り

●新栄早渕地区…連合町内会主催の夕涼み会、スポーツフェスタ

●佐江戸加賀原地区…佐江戸夏祭り、三世代交流会

●荏田南区…さわやかスポーツ大会、集まれ!夏キャン

●渋沢地区…朝のラジオ体操、レクリエーション大会

●茅ヶ崎南MGCRS地区…夕涼み会～スポーツ推進委員と合同で子ども向けイベント

●柚木荏田南地区…夏祭りの子どもみこし、子どものためのお琴コンサート



「50周年の節目に活動でき 感謝」

戸塚区青少年指導員協議会 会長 藁科 文男



青少年指導員制度50周年記念誌発行、おめでとうございます。また、この記念すべき50周年の節目に活動できることに感謝しております。

戸塚区の青少年指導員協議会は、昭和45年に発足し、10年目には、各地区でキャンプやハイキングなどに力を入れるようになり、活動も順調になりました。そして、55年にはJR東戸塚駅が開業するなど、戸塚区は大きく変化しました。それに合わせるように区の活動も、地引網、映画会、スケート教室、紙ヒコーキ大会、みかん狩りなど、また平成の頃に、ウォーク、チャレンジフェスティバルへと変わっていきました。中学生対象では、昭和58年の丹沢登りに始まり、スキー教室、ボウリング大会、青少年防災対応力強化研修へと、年々工夫をこらしながら変化してきました。

これらの活動は、少子高齢化、情報化、国際化、消費社会化など青少年を取り巻く環境に対応したものでもあり、諸先輩方の努力の積み重ねでもあります。今後も、県、市の協議会の下、社会環境に対応した青少年の健全育成に努めてまいりたいと思います。

「青少年指導員制度50周年を祝して」

戸塚区長 田雑 由紀乃



青少年指導員制度50周年、誠におめでとうございます。

戸塚区で行われる「チャレンジフェスティバル」では、スリッパ飛ばしや大声出しなど、19もの種目に懸命に取り組む子どもたちの姿を見ると思わず笑顔がこぼれます。昨年の自分を越えようとする向上心や経験を積むことはとても大切で、将来を担う人材の育成につながっています。

また、平日の昼間における防災対応力の強化を目的に、「青少年防災対応力強化研修」も行われています。受講する中高生のみならず教える側の青少年指導員の皆様にも、実践的な知識・技術の習得をしていただく場となって、地域での安全・安心の向上に、大きな財産となっています。

この他、各地区におけるキャンプや工作体験など、地域に密着し根づいた取組で、子どもたちを笑顔にするとともに、得難い体験の機会を提供してくださっています、本当にありがとうございます。

最後になりましたが、本市の青少年指導員の皆様のますますのご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

戸塚区青少年指導員協議会概要

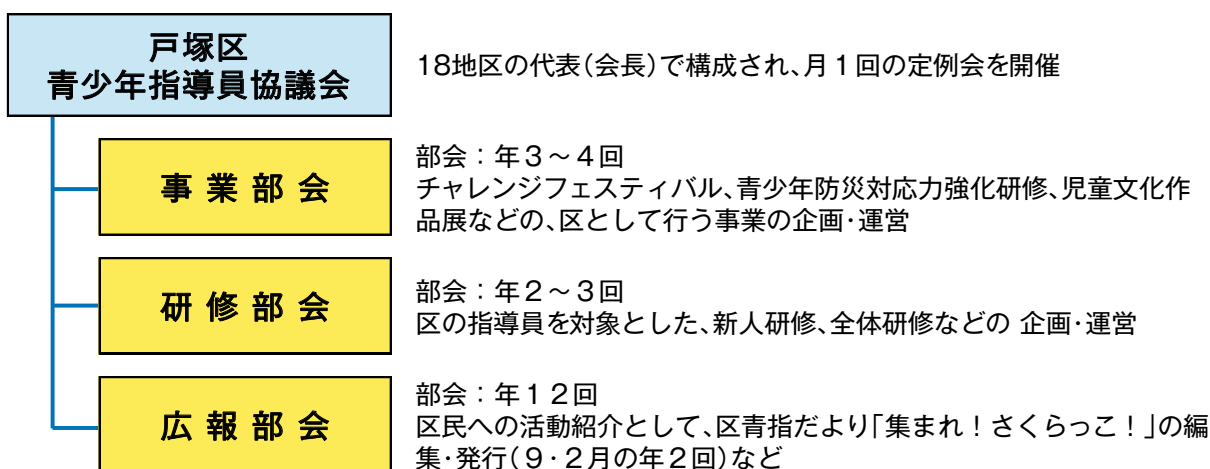
平成31年には区制80周年に

東海道の宿場町として栄えた戸塚、明治20年には戸塚駅が開業、そして昭和14年に戸塚区が誕生しました。昭和44年瀬谷区と分区し、55年の東戸塚駅開業を経て、61年には栄区、泉区と分区しました。現在、面積は市内1位、人口は4位、人口密度は10位です。5～19歳の青少年数は区内の14.3%を占めています。平成31年には区制80周年を迎えます。



「東海道五拾三次之内 戸塚 元町別道」
(横浜市中央図書館所蔵)

3つの部会を中心に活動を展開



「活発な地域活動」が自慢



区としての活動の他、地区活動として、クリスマスリース・ツリー、ミニ門松、竹とんぼ、凧、紙ヒコーキ、和紙作りなどの工作教室や、お菓子、うどん、パン作りなどの料理などの児童文化教室。

またウォーキング、マラソン、ドッジボール、インディアカなどのスポーツ大会。凧揚げ、キャンプ、芋堀り、潮干狩り、流しそうめん、ダンボール迷路、地域清掃、社会見学会などの体験活動。

そして指導員によるパトロール、地域のイベントでの模擬店や運動会の運営など、さまざまな活動をしています。

地域での活動が活発なところが、戸塚区の自慢の一つです。

戸塚区活動紹介 戸塚区の協議会として活動している内容を、写真で紹介します。

チャレンジフェスティバル

毎年5月に、戸塚小学校の体育館と校庭で開催。500名ほどの小学生が集まり、19種目にチャレンジしています。



みんなで準備体操
24回目を迎えたチャレンジのチャラシー



丸太切り



数字かき



お手玉



スリッパとばし

青少年防災対応力強化研修

毎年11月頃、中高生を対象に、災害時に役に立つ研修を開催しています。



戸塚区の中学校・高校から参加

人気のはしご車の体験も



初めて体験した放水



昼食も災害時を想定したメニューに



AEDの使用法や心肺蘇生などを体験

児童文化作品展

12月に、戸塚地区センターにて開催し、各地区で行った工作作品の展示とプラスチックの板を使った工作教室などを実施しています。



各地区の作品が一堂に



人気のプラ板工作とバルーンアートのコーナー

新人研修会

6月に、青少年指導員としての基礎知識を学びます。



先輩の話しを熱心に

全体研修会

全員を対象に、スキルの向上や親睦を深める研修会です。



ソフトバレーで親睦も

さくらっこの発行



年2回、青少年指導員の活動を、区民の皆様にご覧いただくため、青指だより「さくらっこ！」を発行しています。

戸塚っ子いきいきアートフェスティバル(共催)

区内の小中高生を対象にした、やきもの体験教室(8月)、舞台発表(10月頃・1月)、作品展(1月)を行う「戸塚っ子いきいきアートフェスティバル」の共催も行っています。



年2回開催される舞台発表



区庁舎3階で、素晴らしい作品が展示され、来場者も多く訪れる(作品展には明治学院大学も出展しています)



上矢部高校陶芸部の指導にて

その他の活動



区民まつり出店：毎年11月3日、東戸塚小学校で開催される「区民まつり」に、青少年指導員のブースを設け、子どもたちに工作の指導や、青少年健全育成の啓発活動を、また各地区青少年指導員では、ヤキソバ、たこ焼き、うどん等の模擬店を出店しています。



パネル展で活動紹介：区庁舎3階の区民広間にてパネル展を開催し、各地区の活動の様子と作品を展示しています。



お結び広場出展：区庁舎3階の区民広間を中心会場として、区内のボランティア団体が一堂に集まり、その中で、青少年指導員のコーナーを設け、活動のPRを行っています。



社会環境実態調査とパトロール活動：7月には、社会環境の実態把握と、活動のPRも兼ね、横浜市青少年指導員による全市一斉統一行動パトロールを行っています。戸塚区では、各地区で、繁華街や公園などをパトロールしています。

「青少年指導員の活動を省みて」

栄区青少年指導員協議会 会長 小西 淳一



平成元年、青少年指導員の委嘱をうけ活動を始めました。青指の役割は当時から子どもたちの健全育成と変わっていませんが、その時々々の世相を反映し、近年はスマートフォンの普及でSNSや個人情報など、子どもたちを取り巻く環境は、より複雑になってきています。子どもたちが仲間と共に活動する意義や楽しさ、大切さを理解、体験し、社会性を身に付けてもらうことが青指の活動の大きな目的と考えています。

栄区青少年指導員協議会の最も大きな行事として、27回目を迎える「SAKAE ヤングフェスティバル」があります。区内全中学校が参加し、模擬店やステージなど企画段階から中学生が加わって、実施・運営までを行っています。また各地区では、「収穫体験」「しめ飾り作り」「どんど焼き」など、地域の特性を活かした様々な行事を通して、子どもたちが「仲間って良いもんだな」と感じてもらえるよう活動しています。

これからも、青少年指導員の活動が子どもたちの健全育成に寄与し続けることを願っています。

「青少年指導員制度50周年に寄せて」

栄区長 小山内 いづ美



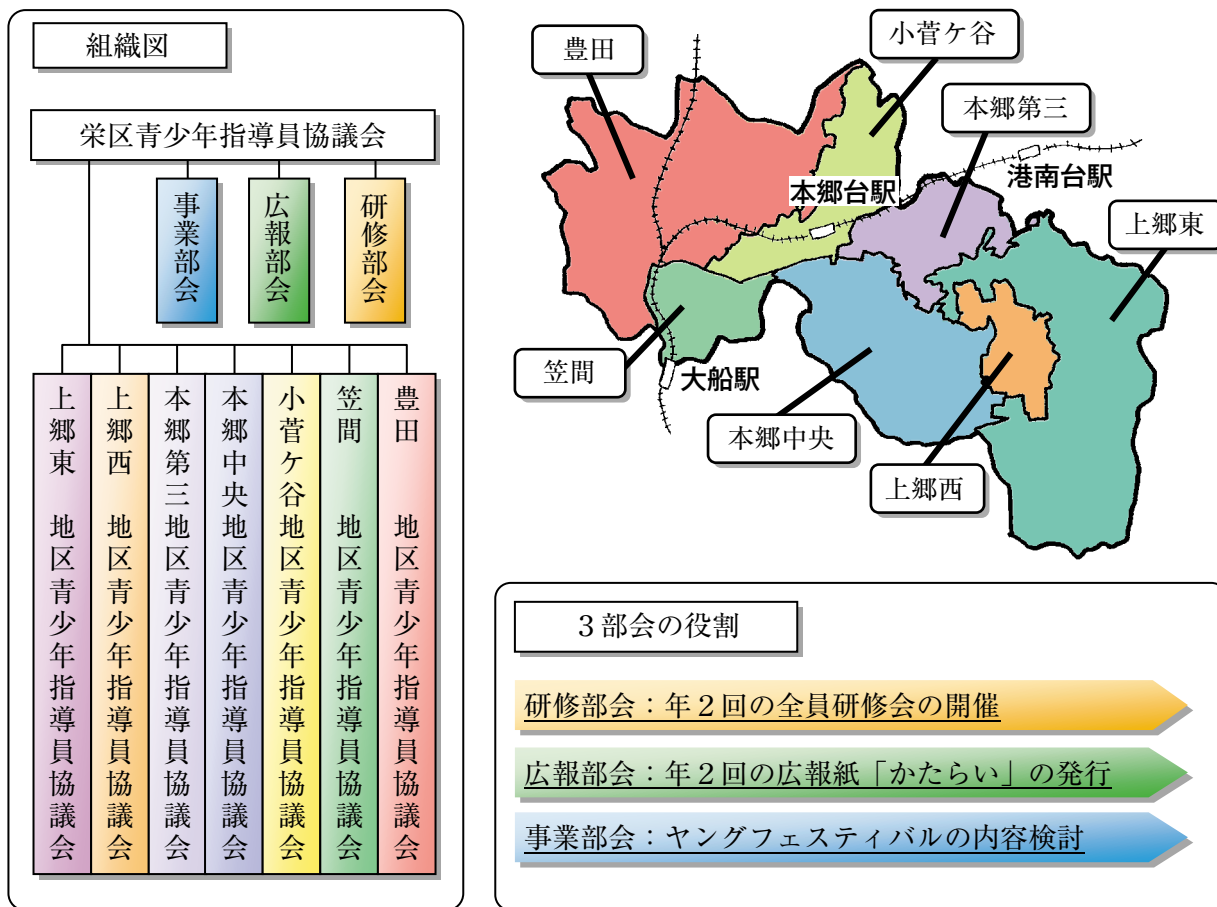
青少年指導員制度が発足して50周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。また、青少年指導員の皆様におかれましては、青少年の健全育成のため地域において日々活躍されていますこと、改めて感謝申し上げます。

さて、栄区は昭和61年に戸塚区から分区し、平成28年11月に区制30周年を迎えました。「感謝・つながり・夢」をテーマに、地域と区役所が一丸となって、500日に渡る様々な記念事業が開催され、栄区全体が大いに盛り上がりました。

栄区青少年指導員の皆様が主体となって開催している、中学生が主役の祭典であるSAKAE ヤングフェスティバルでは、皆様の工夫によって、区制30周年記念事業のクロージングイベントにふさわしく、会場は例年以上の大きな賑わいを見せました。

区制30周年記念事業を通して生まれた「思い」と「つながり」を大いに活かしていただき、今後の青少年指導員の皆様のますますの御発展と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

栄区青少年指導員協議会の概要



委嘱人数

7つの連合町内会に所属する104名
(平成29年4月現在)が活動しています。

- ・ 豊田地区 (18名) ・ 本郷第三地区 (12名)
- ・ 笠間地区 (15名) ・ 上郷西地区 (12名)
- ・ 小菅ヶ谷地区 (14名) ・ 上郷東地区 (13名)
- ・ 本郷中央地区 (20名)



全員研修会の様子

年間行事予定

- ・ SAKAEヤングフェスティバル開催 (3月)
- ・ 全員研修会 (6月ごろ、2月ごろ)
- ・ 広報紙「かたらい」発行 (6月、11月)
- ・ 定例会 (8月を除く各月)
- ・ それぞれの活動のための会合を随時開催



広報紙「かたらい」
(平成29年6月発行号)

栄区青少年指導員の活動紹介

栄区は平成28年に区制30周年を迎えました。旧戸塚区時代からの青少年指導員活動を引き継ぎ、地域と協力して日々活動しています。

その活動の中でも、栄区を代表する行事のひとつとして毎年開催している『SAKAE ヤングフェスティバル』を御紹介いたします。



SAKAEヤングフェスティバルとは

SAKAEヤングフェスティバルは、区内の青少年の健全育成や地域の交流を深めるために、栄区青少年指導員協議会と栄区役所の共催により平成3年3月から開催されている事業で、「ヤングフェス」の愛称で親しまれています。

主催はSAKAEヤングフェスティバル実行委員会(主管：栄区青少年指導員協議会)で、ステージや模擬店を中心に、企画から当日の運営まで、区内の中学生と地域の大人達が協働で行います。



会場である本郷台駅前広場と本郷台駅前公園では、駅利用者など多くの方々に御観覧いただいています。



区内中学校によるステージ発表



賑わう模擬店の様子

SAKAEヤングフェスティバルの沿革

平成3年3月栄区役所を会場に第1回SAKAEヤングフェスティバルを開催

当初は「お客さま」だった中学生が、企画段階や本部スタッフとして参加するようになり、中学生が主役となる現在の姿になりました。現在は区内の各中学校、本郷特別支援学校、子ども会などが模擬店やステージを競い合っています。



山形県道志村の中学生による
「東富士 七里太鼓」の披露

平成14年から会場が本郷台駅前に移動

以降、駅前商店街を始め、区内の多数の企業様より協賛をいただいています。また、長野県栄村、山梨県道志村との交流を行っています。

平成23年は震災の影響により初の中止

東日本大震災の影響により初の中止となりましたが、本部スタッフで参加予定だった中学生を中心に、東日本大震災及び栄村大震災(翌12日)の震災被害に対する募金活動を行いました。



中学生が主役の一日に

平成25年3月からは、『栄区中学校対校駅伝大会』が同日開催されるようになり、栄区の中学生の祭典として、ますます区民の皆様にご期待を頂く行事となっています。

このように、時代と共に成長するSAKAEヤングフェスティバルを継続して開催することが、私たちの使命のひとつであります。

「青少年指導員50周年に思うこと」

泉区青少年指導員協議会 会長 青木 日出男



青少年指導員の活動の歴史が50年になりました。おめでとうございます。50年前というと、自分が大学生になった年。普段は意識していませんでしたが、青少年指導員50周年記念の活字を見ることが多くなり、改めて50年前を振り返って若いころの事を思い出しました。当時は青少年指導員の存在を知りませんでした。自分が青少年指導員になって22年。その倍以上の期間を多くの方が引き継いで、半世紀も活動が続いてきたということに感心します。

平成30年3月11日(日)には、神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会が横浜みなとみらいホールの大ホールで開催されます。50年の節目に泉区の会長でいられたことは運の良さだと思い、地元開催となる大会では、横浜の青少年指導員として立派な記念式典となるよう微力ですが全力を尽くしたいと考えています。

50周年記念誌編集委員の皆様ご苦労様です。

「青少年指導員制度50周年に寄せて」

泉区長 額田 樹子



青少年指導員制度が50周年を迎えられましたことを、心から御祝い申し上げます。また、青少年指導員の皆様には、長年にわたり地域の青少年健全育成のために御尽力を頂き、誠にありがとうございます。

泉区青少年指導員の皆様には、薬物乱用防止の啓発活動をはじめ、非行防止のための夜間パトロール等を実施いただいておりますが中でも「ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会」は、中学生と障がい者との交流に御支援をいただき、参加される多くのみなさんに大変喜ばれている行事の一つです。このほか、青少年に活動の発表の場を提供する「青少年フェスティバル」も開催される等、さまざまな熱心な取組により、健全な地域社会づくりの実現に寄与されています。

これもひとえに、泉区青少年指導員協議会を支えてこられた歴代の役員、指導員の皆様の御努力によるものと考えており、泉区としましても、今後も、皆様とともに青少年の健全育成に向けた取組を推進してまいりますので、一層の御力添えをお願いいたします。



泉区の概要

人口 約15万3千人
面積 23.56平方キロメートル

泉区青少年指導員の構成

女性 32人

男性 119人

70代 10人

20~30代 10人
60代 46人
50代 44人
40代 41人

地区名	委嘱人数	平成28年度の主な活動
中川地区	22	ドッチボール大会
緑園地区	11	横浜市民防災センター体験
新橋地区	8	歩け歩けハイキング
和泉北部地区	10	防犯功労表彰受賞
和泉中央地区	21	和泉川クリーンアップ
下和泉地区	7	子ども会バスツアー
富士見が丘地区	9	流しそうめん
上飯田地区	13	上飯田文化展
上飯田団地地区	7	輪投げ大会
いちょう団地地区	7	おでかけ会
中田地区	28	サマーキャンプ教室
しらゆり地区	8	子どもフェスティバル
合計	151	



泉区マスコット
キャラクター
「いっずん」

■泉区青少年指導員協議会について

区青少年指導員の代表をもって組織し、会長 1名、副会長 2名、会計 1名、監査 2名を置く。また、事業部、広報部、社会環境担当で組織する。

※データの基準年月日平成29年10月1日時点

ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会 (吉川 明)

今年で第26回目を迎えた「ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会」が、晴天の中実施され、障がい者の皆さんと中学生の交流が行われました。

大会では、昼食に青少年指導員がつくったカレーを参加者に食べてもらうことが恒例となっており、わたしは昼食のカレー担当として参加しました。少年たちの食欲



は大変なもので、ある少年たちは4杯もおかわりをしたのにまだ食べられるという顔をしていたのは大変驚きでした。食欲旺盛なのか、よほどカレーの味がよかったのかはわかりませんが、カレーの配食は大盛況のうちに終了いたしました。今後も、一緒にスポーツをしながらカレーを食べたりすることを通して、参加者の心の

交流が深まっていくことを期待しています。



全員研修会 (大島宗夫)



毎年、泉区の青少年指導員の研修が開催されています。今年6月11日に中川地区センターで開催されました。午前には、元JAXAの的川泰宣博士の講演でした。宇宙や星の話の中で、子どもの成長には好奇心が必要で、大人は子供の好奇心をきちんと受け止めることが大切ではないかという話が印象に残りました。午後は、毎年恒例の各地区対抗のペタンク大会が行われました。スーパーショットで「勝った!」と思ったところ、さらにスーパーショットが飛び出し、逆転に次ぐ逆転で勝負が決まるなど、白熱したゲームが繰り広げられました。ゲームに負けて

も、ゲームを観戦するだけでも十分に楽しめました。泉区の青少年指導員の皆さんの親睦が深まった一日でした。

泉区民ふれあいまつり (遠藤義隆)



毎年、11月3日に和泉遊水地において、泉区民ふれあいまつりが開催されております。子どもたちの未来を創る“いず魅力”をテーマに多くの区民の皆さんが一堂に会し、ふれあいの場を持つことで、一層の郷土愛と相互の絆を深め、明るく元気の出る街づくりを推進する目的で行われております。

ステージでは保育園、小・中・高・大学生や各種団体が出演し、和太鼓やフラダンス、吹奏楽演奏そして泉区民音頭などのイベントがあり楽しませています。模擬店もたくさん出展され、それぞれ特徴あるプロレベルのグルメ店が出店されました。私たち青少年指導員も昨年、玉こんにゃくおでんとサイコロステーキを出店しました。とても評判がよく、「もっと材料を準備すればよかったかな」と思いました。親子で楽しめるふれあい広場では、子どもたちに人気のスライムやむかし遊びも私たち青少年指導員が担当しております。11月3日に向けてレッツゴー。



青少年フェスティバル (鳥海和宏)



毎年、泉区では青少年フェスティバルを行っており、今年3月12日に行われました。以前は、模擬店を中心にマーチングバンドや高校生のバンドを屋外の和泉遊水地で行っていましたが、雨天のことも配慮し屋内で行うことになりました。そのため、旭区の音楽祭等を視察し、平成25年度からは泉公会堂で開催できるようになり、今年で4回目の屋内での開催となりました。

ホールでは、小学校のマーチングバンド、バトン、空手や和太鼓、高校生によるバンド演奏等が行われ、屋外ではキャラバンカーにより薬物の恐ろしさを知っていただく薬物乱用防止キャンペーンも行われました。



「青少年指導員として」

瀬谷区青少年指導員連絡協議会 会長 高橋 三雄



青少年指導員制度50周年を迎え、お祝いできることを大変嬉しく思っております。

私も青少年指導員となりまして、24年になります。

その間諸先輩方に区全体行事として、瀬谷っ子探検隊、瀬谷かるた大会、せやっこ農体験などを企画していただき、現在も恒例行事として開催されております。

昨今の青少年問題については、とにかく青少年指導員でどうにかならないのかという声も聞こえてきます。長年の課題であります。個人情報保護法の問題、ボランティアという立場など、なかなか立ち入れないのが現状です。

現在できることは、イベントなどを通して、健全育成やパトロールなどで地域を活性化させることだと思っております。

できる範囲で楽しく活動していきたいと思っております。

「青少年指導員制度50周年に寄せて」

瀬谷区長 森 秀毅



青少年指導員制度の発足から、今年で50周年を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。

少子高齢化や情報化の急速な進展などで、青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。特に近年は、携帯電話やスマートフォンなどの普及に伴い、子どもたちがSNSを利用する機会が増え、顔を知らない他者でも容易に交流が持てるようになりました。

一方で、それらの持つ危険性を軽視して利用した結果、青少年が巻き込まれる事件や事故が、たびたび報道されています。

このような事件や事故を未然に防ぐためにも、地域などの身近な人を中心に、世代を超えた顔の見える関係づくりが、今後非常に大切になると思います。

その意味で、普段みなさまが地域で取り組まれている事業は、子どもたちが安心して、世代を超えて地域の大人と交流ができる、大変貴重な機会と言えます。

瀬谷区としましても、今後も社会全体で子どもたちを見守る意識を高めることが大切であると考え、引き続き支援事業に取り組んで参ります。

<瀬谷区の構成地区図と各地区の取組紹介>

瀬谷北部地区

青少年指導員数：11名
定期的にカローリング大会やシャボン玉遊びをしながら、子供たちと交流を図っています。

細谷戸地区

青少年指導員数：8名
ボーリング大会やかかるた大会の他に、地域の行事と連携した活動を多く行っています。

相沢地区

青少年指導員数：16名
楽しい遊びとゲームの集い・相沢冒険隊等の独自事業や、こども球技大会等で活躍しています。

本郷地区

青少年指導員数：8名
毎年11月3日に日枝社境内でふれあい文化祭を企画・運営しています。

瀬谷第四地区

青少年指導員数：15名
地区連合自治会と連携して「レクリエーション大会」等、地域に根ざした取組を行っています。

瀬谷第一地区

青少年指導員数：10名
小学生を対象にした「DO(ドゥ)スポーツ」や小学校でグラウンド・ゴルフを行っています。

三ツ境地区

青少年指導員数：13名
スポーツ推進委員と一緒に、夏レク(カレーパーティ)を行っています。

瀬谷第二地区

青少年指導員数：24名
潮干狩りやジュニアキャンプを実施し、ちびっ子フェスティバル等に参加協力しています。

阿久和北部地区

青少年指導員数：11名
瀬谷かるた大会の演習として、毎年12月にかかるた会を実施しています。

南瀬谷地区

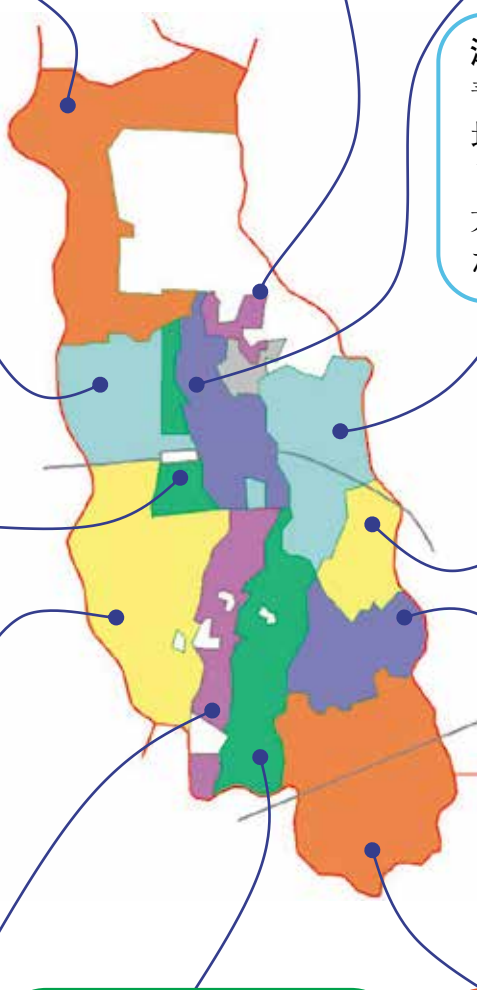
青少年指導員数：12名
子どもたちとの親睦のため、クリスマス会を開催し、工作やゲーム等で交流を深めています。

宮沢地区

青少年指導員数：11名
【瀬谷かるた大会で優勝しよう!】をスローガンに、宮沢かるた大会を開催しています。

阿久和南部地区

青少年指導員数：14名
デイキャンプやウォークラリーを中心に、連合自治会とともに日々活動しています。



<瀬谷区の活動紹介>

・瀬谷っ子探検隊

瀬谷区で一番長く続いているイベント、瀬谷っ子探検隊。

区内在住・在学の小学生を対象に、平成10年度から毎年開催しており、今年度で20年目と、節目の年を迎えました。

事業開始時はバスを貸し切り、横浜みなとみらい21や宮ヶ瀬ダムなど、市内・県内の様々な場所や研修施設等を訪れていましたが、近年は電車と徒歩で行ける大きな公園に行き、クイズラリーやフォトビンゴなどをして、楽しく1日を過ごす企画となっています。



瀬谷っ子探検隊2010 @宮ヶ瀬ダム



瀬谷っ子探検隊2017 @旭区・こども自然公園

・瀬谷かるた大会

瀬谷歴史かるたを使用する瀬谷かるた大会が、今年度で14回目を迎えました。

参加対象者は、区内在住・在学の小学生。各学年1チーム3名の対抗戦で、予選は3チームでリーグ戦を行い、リーグ戦を勝ち残った4チームが決勝トーナメントに進出し、優勝から4位までを決めます。

当初は、1・2年、3・4年、5・6年の部の3部門で始まりましたが、次第に参加者が増え、第8回大会から学年ごとの6部門になりました。現在では、毎年70チーム近くの応募があり、会場は活気に溢れます。

瀬谷歴史かるたは昭和55年、瀬谷歴史かるた発刊委員会により発行され、平成9年に再発行、平成25年に復刻版が制作されました。読み札には「瀬谷銀行」「長屋門」や区内の社寺など、瀬谷区の歴史が題材になっており、旧かな遣いの「ゐ」や「ゑ」を含む、全49枚で構成されています。



各チームが優勝を目指して戦います



コンマ数秒差！臨場感が伝わってきます

・せやっこ農体験

平成16年から始まったせやっこ農体験。地元で農家を営む方の協力を得て、区内在住・在学の小・中学生を対象に、年間5回程度実施しています。

区役所が主催ですが、青少年指導員が当日の運営を中心に事業協力しています。

今年度は、田んぼでは田植えから収穫まで、畑ではサトイモ・サツマイモ・ラッカセイの植付けから収穫までを体験し、最後に食育と玄米の試食を行いました。

募集定員は60名ですが、毎年大変人気があり、ここ数年は連続して定員を超える応募があります。



事業開始前には、毎回綿密な打合せを実施しています。



ご協力いただいている農家の高橋さん

【体験の様子】



サツマイモの植付け



ラッカセイの収穫

田植え



稲刈り



神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会

平成29年度は、神奈川県青少年指導員制度が創設されてから50年という大きな節目の年です。平成30年3月11日(日)には、みなとみらいホール(横浜市)で神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会が開催され、実に、県下約1,500名の青少年指導員が一堂に会しました。

大会は、陸上自衛隊高等工科学校ドリル部と横浜市立樽町中学校文化部有志によるすばらしいオープニングアトラクションから始まりました。



<陸上自衛隊高等工科学校ドリル部による演技>



<横浜市立樽町中学校文化部有志による合唱>

第1部の式典では、全青少年指導員を代表して、石井一也神奈川県青少年指導員連絡協議会会長(横浜市)より、大きな節目である50周年記念大会開催のお礼と、戦後の荒廃期、高度経済成長期、オイルショック、バブル期と、大きなうねりを経て、現在に至るまで、先を歩み、歴史と信頼を残してくださった諸先輩への謝意が述べられ、また、今後の活動への熱い思いと期待がにじむ挨拶をされました。



<黒岩祐治県知事あいさつ>

そして、黒岩祐治神奈川県知事から「青少年指導員の皆様には、長年にわたり、本県の青少年の健全育成の推進に多大なお力添えをいただいております。深く感謝申し上げます。未来を担う青少年が、自らたくましく生きる力と思いやりの心を持った人間として成長するためには、地域で青少年の健全育成に携わっておられる皆様の豊富な御経験と熱い想いが不可欠です。このたびの50周年という大きな節目を契機とし、今後とも青少年が健全に育つよう、なお一層御尽力いただくとともに、県の取組みにもお力添えをいただくようお願い申し上げます。(当日あいさつ一部抜粋)」とお言葉をいただきました。

続いて、柏崎誠横浜市副市長から「50年間の活動に深く感謝申し上げます。今後も青少年指導員の皆様と連携し、横浜市としても、より一層青少年施策の推進に取り組んでいきます。」とお言葉がありました。

来賓祝辞では、小野寺慎一郎神奈川県議会副議長より、神奈川県青少年指導員制度50周年へのお祝いの言葉をいただきました。

第1部終了後、大会は第2部に移り、プロジェクトXでお馴染みの元NHKエグゼクティブアナウンサー国井雅比古氏に御講演いただきました。「プロジェクトX～挑戦者たちの素顔～」をテーマに、瀬戸大橋建設を最前線で指揮した杉田秀夫氏の生き様を表すエピソードを中心に、国井氏御自身の経験も交えながら御講演いただき、参加した青少年指導員にとって大変興味深い講演でした。

「神奈川県青少年指導員制度50周年及び記念誌発刊にあたって」

恥ずかしいことに、マスコミの世界に身をおきながら、青少年指導員がどんなことをしている方なのか知りませんでした。今回、お話しを伺ったり、資料を読ませて頂いたりして、驚きました。

子供たちの暮らしや日々の活動を支援し、取り巻く環境の改善のために、横浜市だけで2,700人、神奈川県全体では5,300人もの多くの方々が、自分の仕事を抱えながら、しかも殆ど無報酬で活動されていると知りました。中には30年以上指導員をされている方がいると聞き、本当に頭がさがります。

指導員をしていて良かったという答えの中に「地域のいろいろな職業、階層の人たちとのかかわりで人間関係がふえた。」をあげた方がいます。

地域は今、多くの問題を抱えています。子供ばかりでなく、高齢者や障害者などにとってもより住みやすい環境をどうやって作っていくか？これからはそうした複合した問題の克服にも挑戦されていくことを期待します。



元NHKエグゼクティブ
アナウンサー
国井 雅比古 氏

大会の最後には、青少年指導員だけでなく、陸上自衛隊高等工科学校ドリル部、横浜市立樽町中学校文化部有志の生徒たちも加わり、会場全員で『若いってすばらしい』を合唱し、場内が一体感に包まれ、大きな盛り上がりの中、閉会を迎えました。今回の大会で生まれた県下の青少年指導員の一体感が、今後の活動にも活きることを期待されます。



<会場全員による合唱>



<横浜市青少年指導員スタッフ一同>

記念大会には54名の横浜市青少年指導員が運営スタッフとして従事しました。大会を終え、従事者からは、「こうした節目の式典に関われたことは青少年指導員として大きな思い出となりました。」「無事に終了してよかったです。」といった声を聞くことができました。

当日、運営に従事した青少年指導員の皆様、本当にお疲れ様でした。

青少年指導員制度50周年記念 平成29年度横浜市青少年指導員大会

平成30年2月17日、神奈川県立音楽堂において「青少年指導員制度50周年記念平成29年度横浜市青少年指導員大会」が開催されました。

石井一也横浜市青少年指導員連絡協議会会長(港北区)は永年勤続者の栄誉を称えたのち、自身の青少年指導員活動を振り返り「多くの人との良き出会いが自分の財産。今回の50周年を一つの契機として、青少年指導員同士の繋がりをより深めていき、さらなる活動の発展に向けて取り組んでいこう」と力強く話されました。



<石井会長あいさつ>

柏崎誠横浜市副市長からは、50周年へのお祝いと、青少年指導員が、地域の大人として、子どもたちの挑戦や成長を見守り、成長を後押ししてくれていることへの感謝のお言葉をいただきました。

永年勤続者顕彰では、長年御尽力の青少年指導員に対し、柏崎副市長より、感謝状の贈呈が行われ、224名の方が表彰されました。



<永年勤続者への感謝状の贈呈>

続いて、会長会表彰では、29年度をもって区会長を退任される、佐藤会長(鶴見区)、金子会長(青葉区)、小西会長(栄区)に石井会長から感謝状の贈呈を行いました。また、今年度をもって横浜市青少年指導員連絡協議会会長及び港北区会長を退任される石井会長にも、感謝状の贈呈を行いました。

その後、来賓の皆様を代表し、松本研横浜市会議長、松澤孝郎横浜市町内会連合会会長より、制度創設50周年へのお祝いと今後の活躍への期待のお言葉をいただきました。

式典の最後には、青少年指導員の新シンボルマークの発表(詳細はP89)と採用者への表彰を行いました。

第2部には、記念講演講師の鈴木一光氏から「子どもは歴史の希望～子どもの幸せを育む～」をテーマに講演をいただきました。今後の活動に活かすことのできる貴重なお話でした。

閉会后、大会を振り返って、小林利彦大会運営委員長(金沢区)より、「青少年指導員制度50周年という節目の年に大会を無事に終えられてよかった。」との総括がありました。

「子どもは歴史の希望～横浜市青少年指導員制度50周年を祝して～」

ヒトが未熟に生まれ自立に要する時間が長くかかるのは、地球上の何処で生きることになるのか産まれるまで判らないからです。寒冷の荒野か、熱帯の密林か。

その環境を生き抜く力を授けるために、産みっぱなしにしないで長い時間をかけて育てる方法を採用しました。

逆に言うと私たちヒトは、両親と地域の人々から愛情と共に社会適合する学習機会をたっぷり与えられないと人になれません。

青少年指導員は、地域の親子を支えて50年、半世紀に及ぶその継続に心より敬意を払うと共に、磨きのかかった壮年期の一層の活躍を祈念し期待いたします。



一般財団法人
児童健全育成推進財団
鈴木 一光 理事長

横浜市青少年指導員新シンボルマーク決定



青少年を見守る社会をサポートする
横浜市青少年指導員のシンボルマーク

神奈川県青少年指導員制度創設50周年を契機に、より多くの市民の皆様へ青少年指導員を知っていただくため、横浜市青少年指導員連絡協議会では、現行のあいちゃんマークにかわる新たなシンボルマークを「青少年を見守る社会をサポートする横浜市青少年指導員のシンボルマーク」をテーマに横浜市全域で募集しました。

7月の募集開始から、10月末の締め切りまでに実に230作品もの応募がありました。

応募作品は、各区協議会や横浜市社会環境健全化部会において検討を重ね、2月の横浜市青少年指導員連絡協議会定例会において決定いたしました。

作品が採用された菅原様には、2月17日開催の横浜市青少年指導員大会において、石井一也横浜市青少年指導員連絡協議会会長より表彰状が授与されました。

今回決定したシンボルマークは平成30年4月1日以降、横浜市青少年指導員の様々な活動で使用していくことになります。青少年指導員の活動の意義がより多くの市民の皆様へ伝わっていくことを願っています。



<新シンボルマーク採用者表彰>

数多くの作品の中から1つを選ぶということは非常に大変でしたが、素晴らしい作品に無事決定したことを大変うれしく思います。

今後、青少年指導員がこのシンボルマークと共により一層地域で活躍していくことを期待しています。

<新シンボルマーク選考の中心を担った佐藤社会環境健全化部会長より一言>



青少年指導員である夫から今回のシンボルマーク募集があることを聞き、少しでも活動に協力できればと応募しました。まさか、採用されるとは思ってもよらなかったもので、驚いていると同時に大変嬉しく感じております。

青少年指導員の活動をより多くの方々に親しんでいただきたいと考え、シンプルでわかりやすいデザインにしました。青少年指導員マークとして末永く御利用いただければ幸いです。

<新シンボルマーク採用者の菅原様より受賞にあたり一言>

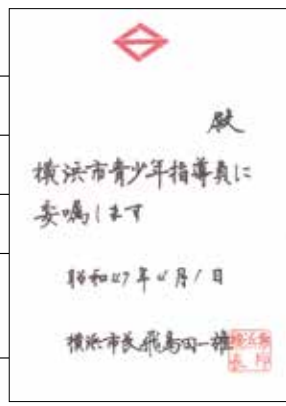


これまで横浜市青少年指導員と共に歩んできたあいちゃんマークは今回の新シンボルマーク決定に伴い、青少年の健全育成の現場から退くこととなりました。

あいちゃん、今までありがとう。

横浜市青少年指導員活動年表

西暦	年号	行事
1947年	S22	神奈川県で児童愛護班が結成
1950年	S25	神奈川県校外生活指導者が結成
1961年	S36	県域で地区少年指導員を設置
1968年	S43	神奈川県青少年指導員制度発足(地区少年指導員から改称)
1969年	S44	港南区・旭区・緑区・瀬谷区誕生 横浜市青少年指導員活動開始
1973年	S48	横浜市青少年指導員連絡協議会発足
1974年	S49	旭区青少年指導員だより第1号発行
1975年	S50	神奈川区青少年指導員だより第1号発行
1976年	S51	中区「第1回文明開化ウォークラリー」開催 旧社会環境実態調査開始
1977年	S52	保土ヶ谷区青少年指導員だより第1号発行 金沢区青少年指導員だより第1号発行
1978年	S53	保土ヶ谷区「第1回新春かるた大会」開催
1979年	S54	横浜市青少年指導員10周年記念大会開催・10年顕彰開始 旭区「第1回こども写生大会」開催
1980年	S55	「第1回横浜市青少年フェスティバル」開催(横浜スタジアム)
1981年	S56	「第1回横浜市青少年指導員大会」開催 南区「第1回ボイスオブユース(青少年の主張)」開催 港南区青少年指導員だより第1号発行
1982年	S57	戸塚区「第1回児童文化教室作品展」開催
1984年	S59	横浜市青少年指導員15周年記念大会開催 中区青少年指導員だより第1号発行
1986年	S61	第1回手作り紙ヒコーキ横浜大会開催 西区青少年指導員だより第1号発行
1987年	S62	栄区・泉区誕生 栄区青少年指導員だより第1号発行 泉区青少年指導員だより第1号発行 保土ヶ谷区「第1回紙ヒコーキ大会」開催 泉区「第1回青少年フェスティバル」開催
1989年	H 1	横浜市青少年指導員20周年記念大会開催・20年顕彰開始
1990年	H 2	神奈川区「第1回ホテル観察の夕べ」開催
1991年	H 3	南区青少年指導員だより第1号発行 栄区「第1回SAKAEヤングフェスティバル」開催
1992年	H 4	南区「第1回ふれあいキャンプ」開催



<活動初期の委嘱状>



<旭区青指だより第1号>



<神奈川県・ホテル観察の夕べ>

西暦	年号	行事
1994年	H 6	青葉区・都筑区誕生 青葉区青少年指導員だより第1号発行
1995年	H 7	青葉区「第1回青葉区民まつり、ステージイベント」開催 都筑区青少年指導員だより第1号発行
1996年	H 8	都筑区「第1回つづき発見ウォーク」開催 ※2000年(平成12年)より「つづきウォーク&フェスタ」に名称変更 神奈川県社会環境健全化推進街頭キャンペーン参加協力開始
1997年	H 9	あいちゃんマーク誕生 港北区青少年指導員だより第1号発行 港北区「第1回ペットボトルロケット大会」開催
1999年	H11	青少年指導員による全市一斉夜間パトロール開始 第32回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 港南区「第1回チャレンジ・ザ・ゲーム」開催 瀬谷区「第1回瀬谷っ子探検隊」開催
2001年	H13	鶴見区「第1回中学生との交流会」開催 西区「第1回森と海の探検隊」開催
2003年	H15	旭区「第1回親子野外自然体験活動」開催
2004年	H16	第37回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 横浜市青少年指導員中堅指導者研修会から横浜市青少年指導員研修会に改称
2005年	H17	「成人の日」を祝うつどいへの当日誘導の協力開始 瀬谷区「第1回瀬谷かるた大会」開催
2006年	H18	有害図書類区分陳列等調査開始
2007年	H19	瀬谷区青少年指導員だより第1号発行
2008年	H20	第41回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 港北区「第1回自然体験教室」開催 都筑区「第1回はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」開催
2009年	H21	横浜市青少年指導員研修会の区持ち回り開始
2010年	H22	神奈川県青少年保護育成条例に「青少年指導員」が規定 神奈川区「第1回小学校音楽フェスティバル」開催
2011年	H23	現社会環境実態調査が開始 東日本大震災復興のため、全青少年指導員による募金を実施
2012年	H24	西区「第1回紙ヒコーキ大会」開催
2016年	H28	緑区「第1回防災イベント」開催 熊本地震復興のため、全青少年指導員による募金を実施
2018年	H30	神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会 横浜市青少年指導員新シンボルマーク使用開始



<つづき発見ウォーク>



<瀬谷かるた大会>



<成人の日を祝うつどいにて>

<東日本大震災救援金>
平成23年6月25日
神奈川新聞社提供



<神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会>

青少年指導員制度50周年記念誌発行編集委員会委員一覧

編集委員長	横浜市青少年指導員連絡協議会会長	
副編集委員長	横浜市青少年指導員連絡協議会副会長	3名
	横浜市青少年指導員連絡協議会部長	3名
編集委員	各区青少年指導員（連絡）協議会会長	11名
	各区青少年指導員（連絡）協議会代表	18名



後方左から小船(港南区)、内山(旭区)、山野辺(保土ヶ谷区)、釣井(磯子区)、渡邊(南区)
前方左から倉形(鶴見区)、菅原(神奈川区)、門馬(西区)、近藤(中区)



後方左から長岡(都筑区)、渡辺(栄区)、國分(泉区)、管野(瀬谷区)、金山(戸塚区)
前方左から小林(金沢区)、白石(港北区)、薄井(緑区)、小暮(青葉区)

編集後記

- 50周年の節目に偶然にも巡り合い、編集委員として関わることができてよかったです。多くの仲間に助けられ記念誌発行まで至りました。仲間たちの協力に感謝です。これからも協力しながら頑張っていきたいと思います。
- 編集委員会では日頃交流のない他区の青少年指導員と議論を共有することができ、他区での取組を知る機会ともなり、大変貴重な経験をすることができました。忌憚のない意見交換ができるのもやはり「青指魂」なのかもしれませんね。
- 記念誌発行にあたり、先輩方の活動を振り返り、青少年指導員の活動の厚みを感じ、それを伝えられるよう心がけました。この記念誌を読んだ方に活動のおもしろさ、頑張りが伝わってほしいと思うとともに今後の青少年指導員の活動に役立つことを願っています。
- 自分の区の原稿を作成していて、活動が多様で紹介したい活動が多く、誌面の編集に苦労しました。
- 「温故知新」好きな言葉です。記念誌作成に携わることができたのは、私の記念です。
- 私が子どもの頃は「子どもは風の子、元気な子」とよく聞いたものですが、外で遊んでいる子もあまり見かけなくなり、少し淋しさを感じます。

発行年月日：2018年3月31日

発 行：横浜市青少年指導員連絡協議会

印 刷 所：中川印刷株式会社



写真提供:横浜港客船フォトコンテスト

■

横浜市青少年指導員連絡協議会

■